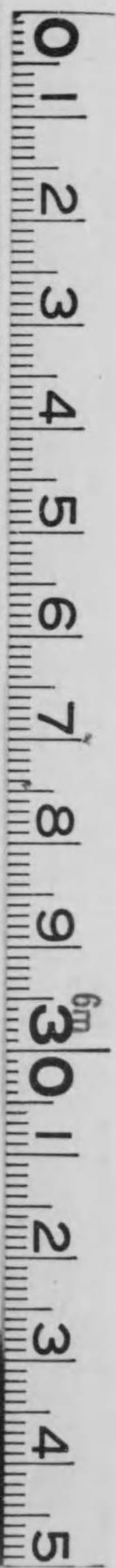


285  
17



始





日曜學校管理法

海老澤亮著



285-17



宗敎教育研究叢書第五篇

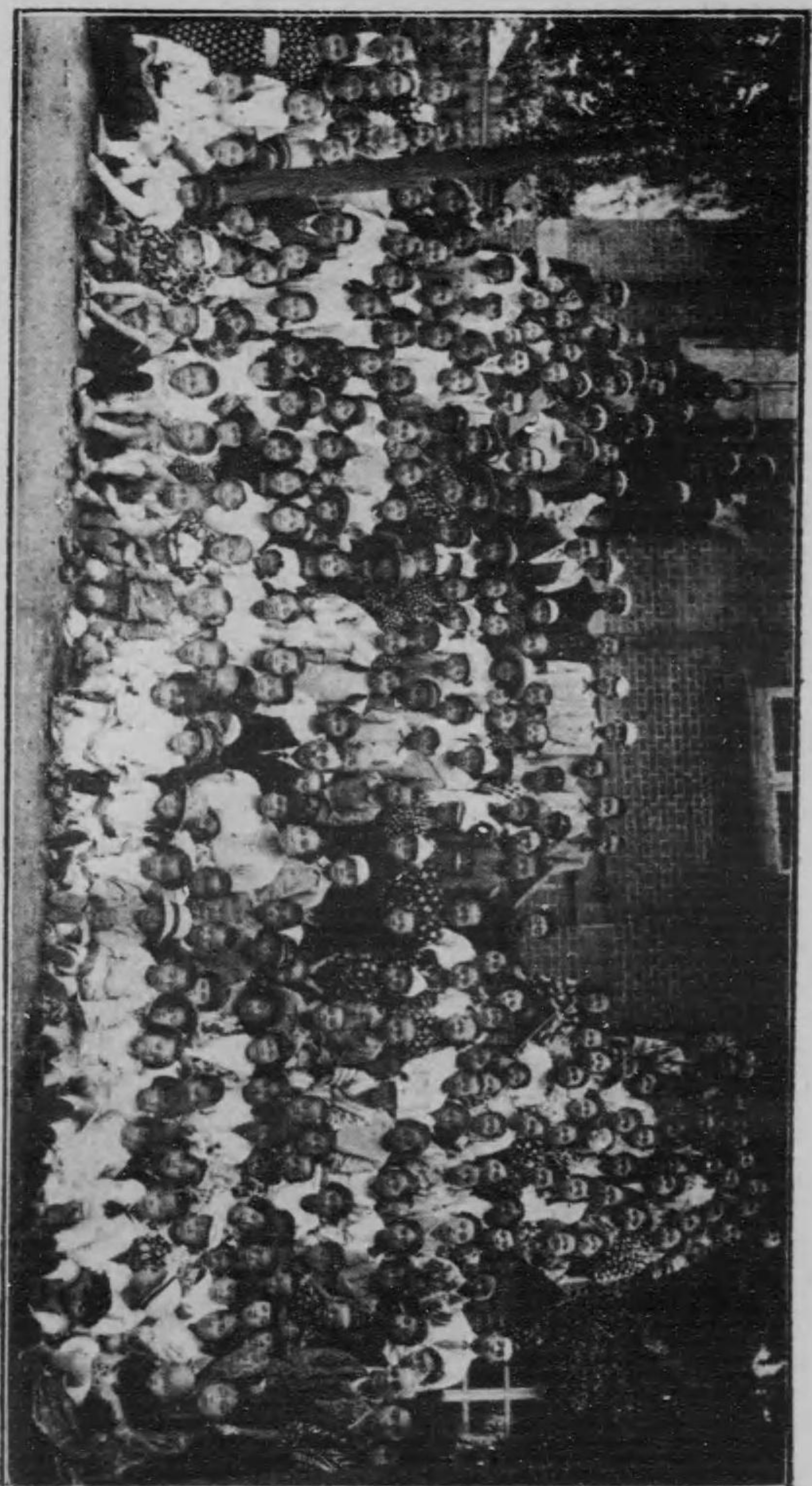
日曜學校管理法

海老澤亮著

大正  
14. 2. 2  
内交







著者の本書に輯録せる處を實施したる札幌組合教會の牧職員及生徒

札幌組合教會  
創立五十年紀念  
一九二九年





宗教教育研究 叢書第五篇 日曜學校管理法 目次

緒 言

管理法總說

- 一、管理法の職能……………(一)
- (イ)管理法の範圍 (ロ)管理法の價值 (ハ)管理法の要素……………(一)
- 二、管理上の綱領……………(二)
- (イ)生徒の協力 (ロ)教職員の協力 (ハ)教師會及就任式 (ニ)日曜學校内規
- (ホ)日曜學校豫定表 (ヘ)禮拜の順序 (ト)學校の秩序 (チ)時間の問題
- (リ)級別及進級法……………(二)
- 三、管理上の指針……………(三)
- (イ)管理上の目標……………(三)



- 一、良施設の完備
- 二、良教材の提供
- 三、良習慣の形成
- 四、良校風の維持
- 五、良教師の撰擇
- 六、我學校の發展
- 七、管理上の責任

(ロ)管理上の方針

- 一、制度と精神
- 二、自由と秩序
- 三、慈愛と權威
- 四、理解と訓練
- 五、興味と靈育
- 六、獎勵と賞與
- 七、管理と指導

一般管理法

(イ)日曜學校の組織及編制

- 一、序説
- 二、組織
- 三、編制

(ロ)日曜學校のプログラム

- 一、修禮
- 二、開校の歌
- 三、主禱
- 四、聖書交讀
- 五、開校の祈
- 六、小説教
- 七、讚美練習
- 八、獻金感謝
- 九、分級點呼
- 一〇、學課教授
- 一一、閉校式

管理上の要項

- 一、生徒の管理

- (イ)整列
- (ロ)姿勢
- (ハ)整頓

- 二、遊戯の管理.....(八五)
- 三、教室内の管理.....(八七)
- 四、課業中の管理.....(九一)

各科管理法

- 一、嬰兒科管理法.....(一一)

(イ)組織 (ロ)趣意 (ハ)手續

- 二、幼稚科管理法.....(二九)

- 一、組織
- 二、設備
- 三、順序
- 四、補助機關

- 三、初等科管理法.....(三六)

- 一、初等科生の特長
- 二、初等科の編制
- 三、初等科の設備
- 四、執行順序
- 五、各級の管理

- 四、中等科管理法.....(三六)

- 一、中等科の組織
- 二、中等科生の特長
- 三、中等科の施設
- 四、中等科の困難



五、高等科管理法……………(一四)

一、青年教育の困難 二、青年の覺醒と活力 三、青年危機の救済

四、青年の指導者 五、青年の訓練 六、青年本位の施設

六、師範科管理法(教師養成の施設)……………(一五一)

一、教師の理想 二、教師の候補者 三、師範科の施設 四、師範科の課程

五、他の教師養成法 六、教師の召命

七、大人科管理法……………(一九)

一、大人科の困難 二、大人科の組織 三、開設の趣意書 四、研究の課程

管理法と教職員……………(二六七)

一、校長の職責 二、教師の職務 三、教職員と教會 四、教師の資格

五、教師の心得 六、職員の仕事 七、牧師の職務

特殊管理法……………(一九七)

一、聯絡機關管理法……………(一九)

(イ)家庭との聯絡

一、家庭側の協力 二、父兄との交渉 三、家庭の注意 四、住宅の選擇

(ロ)公立學校との聯絡

一、教師相互の理解 二、公立學校の調査 三、教師相互の會合

四、個性教育上の協力 五、相互の特殊協力

(ハ)社會との聯絡

一、奉仕の對象 二、奉仕の機會 三、奉仕の實行

二、特殊式日管理法……………(一九)

(イ)復活節(イースター) (ロ)子供の日(花の集) (ハ)振起日 (ニ)進級式

(ホ)聖誕節 (ヘ)感謝日 (ト)決心日 (チ)禁酒日 (リ)献兒禮

三、補助機關管理法……………(三五)

一、各級生徒委員會 二、少年聖歌隊 三、少年共勵會 四、學藝演習會

五、教育委員會 六、保護者會(父兄會)

管理上の教務……………(三三)

(イ)財務上の管理



- 一、財務の處理
- 二、献金の處理
- 三、禮拜の献金
- 四、誕生日献金
- 五、賛助員献金
- (ロ) 教務上の管理
- (イ) 保管記録 (ロ) 學籍簿 (ハ) 出席簿 (ニ) 統計事務 (ホ) 出席獎勵
- (ヘ) 通信簿

日曜學校管理法 目次(終)

日曜學校管理法

海老澤 亮 著

管理法總說

一、管理法の職能

【(イ)管理法の範圍】 日曜學校に於ける宗教々育の主要なる問題は、教師、教材及び生徒の三者が、如何なる關係に於て、之に對應する教育の三方面、即ち



—〔 2 〕—

禮 拜      Worship  
訓 育      Instruction  
訓 練      Training

ミ相互的交渉を完ふして、所期の目的を達するかに就て考究せらるべき事である。之が爲に教會の内外に於て職員及生徒に關する管理が必要であり、又學校の行政的方面及其經營に關する管理が必要となり、更に學校ミ他の諸機關、例せば内部的の共勵會其他各種委員組織の如き、又外部的の諸機關、即ち他の公立學校や、家庭や、一般社會との關係に於ける管理方法が必要となつてくる。故に、管理法は極めて廣汎なる範圍の問題を取扱ふべきものであつて、教授法の如く主として教室内に於ける教課ミ、其運用による訓育ミに就て、教育學的管理の應用を企つるものに比し、甚だ多方面である事を免れない。されば管理法は極めて平凡

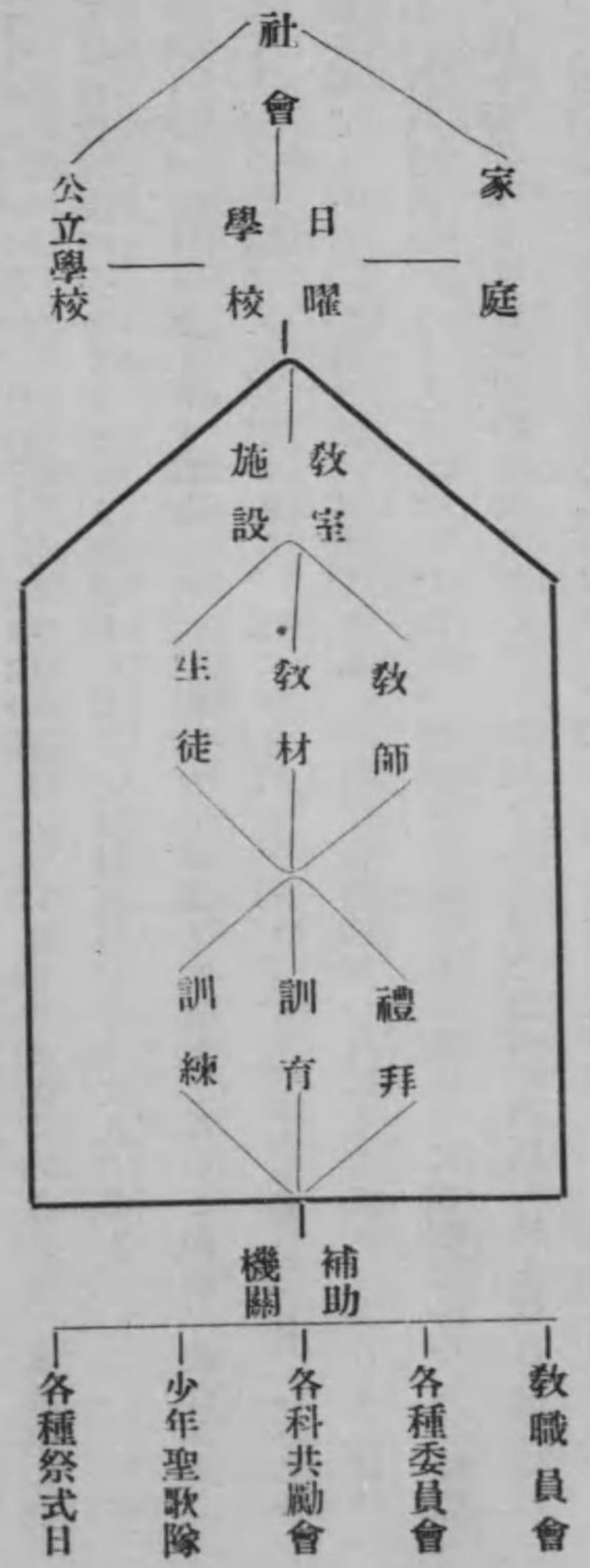
—〔 3 〕—

なありふれた事實に關するものであつて、特殊の專門的問題に關する研究のやうに深い興味をそゝるものではない。けれども日曜學校の教育に於ける他の如何なる部門も、其運用に至つては皆管理法の手をくゞるべき筈であつて、之は教育事業の支配人である。

マネージメント其宜しきを得なければ、如何なる事業も發展をしないミ同様、教育事業に於ても差配の問題は甚だ緊要である。總ての部門を配列し、之を適當なる關係に置いて、各々其分を果さしむるのが管理法の職能である。されば管理法を一言にして概括し得るならば、蓋し「組織的常識」ミでもいふべきである。學校を中心として其内外に接觸交渉をなすに際し、最も緊要なるは管理者の常識である。又常識を備へたる組織的頭腦の持主は自ら經驗によつて有効なる管理能力を發揮し得べきものである。今管理法の關係する範圍を圖示すれば左の如くなる。



管理法圖譜



【(ロ)管理法の價值】 管理法の價值は工場又は商店に於ける事業上の管理と同様に、時間ミ、勞力ミ、材料ミの濫費を防ぎ、且つ全體の活動をして澁滞なく圓滑に進ましむる事にある。學校の管理に於ては

- 一、教育事業をして最も効果あらしむる爲、最もよき條件を撰擇する事であり、
- 二、學校及教室内に於ける凡ての聯想及び方法、即ち生徒の取扱を受くる環境の全部を、直ちに教育の方法となし得る様に指導する事である。

管理法とし云へば聊か官僚的に響いて、軍隊式の融通のきかぬ型を當てはめる様に聯想せられ、日曜學校に於ては不必要であるかの如く考ふるものもあるかもしれない。

素より劃一的方法に依つて管理を企つる事は、從來の國民教育に徴しても望ましからざる處であつて、近來ダルトン教育案等の主張せらるゝのも之が爲である。然し同時に教育上忘る



可からざるは「兒童教育の主要なる一面が服従に對する訓練にある」こいふ一事である。之が爲には精神の充實したる最善の管理法を適用する事が緊要である。

【ハ】管理法の要素】管理法の成功不成功を判断すべき要素は五つ程ある。

(一) 管理上凡ての働きは其教育事業を進捗せしむるものでなければならぬ。

何れの學校に於てもあまりに混雜して、あまりに忙しく、あまりに散漫にして、結果に向つて指導する事が少ない。其活動は或は生命に満ち、寧ろ熱心であり、餘りに時間と勞力を浪費し易く、屢々目的のない活動をなし、一定の結果を齎すべき活動に於て缺けて居る。

最もよく管理せられたる學校は、些の滯滞もなく磨擦もなく圓滑に活動するものである。

(二) 管理の動機は主として主觀的でなければならぬ。

最善の管理は教育に従事する凡てのもの、自己管理に始まらねばならぬ。而して最もよく管理されたる學校は、教師及生徒の自發的行爲に對して最良可能なる自由を保障するものである。

これは必ずしも弛んだ校規を是認するのでもなければ、放任されたる管理を是認する事でもなく、況んや薄弱なる訓練をよしとする譯ではない。秩序に關する最高の標準は内面に確立せらるべき主觀的のものであるこいふ理想によるのである。即ち管理法の方法は益々廻り遠い様であるけれども間接的にするのが理想である。即ち生徒の公義、忠信及善行に對して直接要求する事の代りに、彼等をして自發的に之を達成せしむる様指導する事である。即ち命令に代ふるに暗示を以てする事である。

斯かる主觀的管理の方法は、客觀的に軍隊式の訓練を適應するに比して、甚だ困難なるに



相違ない。然しそれは品性に於てよき實を結ぶ所以である。

(三) 管理法の成否は周圍の精神的要素に關係する。

其學校の存在する地方の感化、即ち俗に所謂人氣は管理上に大なる影響を及ぼす。即ち生徒の家庭の狀況又は父兄の日曜學校に對する態度、或は廣く社會一般の基督教に對する態度によつて、日曜學校の管理は甚だしく困難を感じる事もあるであらう。

日曜學校生徒の學校に對する興味の如何も亦大に與つて力がある。教師のなす處に對し更に興味を感じぬ生徒も、或機會に於て忽然として掌を返す如く、非常なる興味を現して來る事がある、生徒の興味を繋ぐとしては管理上成功する事ができない。

指導上の感化力は他の一つの要素である。

生徒に於ても或者が自然其指導者となる、そして管理上困難を感じしむる低氣壓の中心は

必ずその勢力ある生徒である事が多い。教師が其原因を捕へ、更に強き指導力を以て彼を正しい方向に指導する事が出来れば、管理上既に勝利を博したるものである。

(四) 管理上人格的の要素は大なる影響を有する。

教師等は知識の程度に於ても異なるが如く、管理或は執行上の才能に於ても種々相違してゐるであらう。或人は自然に生徒の尊敬と協力を得る性格を有し、他のものは自然に反抗と不信を招致する様な性格をもつてゐる。生徒等は半ば意識的に、しかも誤りたらずに、其教師の内的精神と性格とを讀むものである。

管理上個人的要素は重大なる影響をもつてゐるが、之は偶然に出来るものではなくして、教師としての凡ての方面に於ける教養に俟たねばならぬ。

(五) 管理の成否は衛生的條件に關係する。



有効なる學校の管理は物理的、身體的の條件を看過する事は出来ない、非衛生的なる状態は常に生徒の身體に有害なるのみならず、管理上甚だ不都合を來すものである。

愉快なる惹き付ける様な美的環境は管理法を助くる事が甚だ多い。即ち學校及教室の衛生的的價値は、教育上尠なからざる力を有する。

さればよき管理法は次の事を豫想する。

- 一、空氣の新鮮なる事
- 二、室内温度は六十五度乃至七十度なる事
- 三、暖房装置を使用する場合に空氣は充分なる湿度を保つべきこと
- 四、塵埃の拭拂されてゐること
- 五、教師及生徒の清潔なる事

新鮮なる空氣を得る爲には、換氣法の設備をするか、或は直接生徒に風を吹き當てぬ様、窓を開く事に注意を要する。而して各教室には寒暖計を設ける事が適當である。一般に衛生に就て知る事は多いが之を實行する處は比較的に少ない。多くの學校の掃除は家庭の清潔に比して甚だ不充分である。屢々床は割目を生じて其清掃の方法が講ぜられない。黑板及拭物は多く白墨の粉を含んで居る。塵多き空氣は健康に有害なるのみならず、管理法を失敗に歸せしむる所以である、之等衛生上の注意を拂ふ事は、教師の仕事の一部である。同時に教師及生徒は神の殿に集るものとして、清潔なる服裝をなし又其身體に於て清潔を保つ様指導されねばならぬ。

## 二、管理上の綱領

- 一、學校の管理を充分に實施せんことをするならば、種々な問題が考へ合はざるべからう。



そのうち直接孰れの學校に於ても、先づ原則として斯くあるべしと惟はるゝ綱領を少しく妥に掲げて、管理上の概念を養ふ一助としたい。

【イ】生徒の協力】 管理上生徒の熱心と興味を引入れて、其協力を促す事が必要である。生徒は教師達を向ふに廻して、其要求に反抗して見たり、或は殊更に其命に服せぬ無頓着の態度を示したり、又は教師を困らす計畫や算段を廻らす事も出来るであらう。けれども最も理想的の信任ある教師に對しては、心よりの協力を辭せざる態度に出づるものである。故に教師は常に彼等の意識的協力を促すやう心懸けなければならぬ、管理上生徒に個人的責任を自覺せしめない事は、決して正常なる教育をなし居る所以ではない。

彼等は因襲に囚はれずに、常に前途を望み將來に生きてゐる、彼等は過去を知らず常に前へ前へ進歩して已まぬ。彼等と協力する事によつて學校の管理は常に希望に満ち、新らし

味を有するやうになる、其協力を促す方法に就ては後章また委員會の條に於て詳しく述ぶる事とする。

生徒と協力する爲めに教師は寧ろ彼等よりも先き驅けして其希望を繋ぐやう心懸くべきである。例へば港に入港する前に先廻りして歓迎するか、或は登山に於ては一足先きに山頂に達して歡聲を擧げて彼等を迎ふるこいふやうな態度である。

生徒と協力する上に於て時に彼等を賞讃する事を必要とするが、決して公開の席に於て生徒を叱責する様な事があつてはならぬ。

學校全體を民衆化する爲めに各級代表者の委員會を組織し彼等の意見を徴する事も亦必要である。其詳細に就ては項を改めて述べやう。

【ロ】教職員の協力】 管理上教職員の心よりの協力を受くる事は最も緊要である。教職員は



校長よりの命令を傳達する器ではなくて、總ての事に於て意識的の協力をなす様でなければならぬ。故に學校の凡ての事柄は校長が立案するにしても、之れを教職員會に諮つて其充分なる討議の後に決すべきである。かくて教職員は其に對して自ら責任を感じるのみならず其全計畫を諒解し且つ斯くなすべき理由を意識せらるゝであらう。

教職員中、屢々或る事に於ては校長に勝るものがある筈であるから、校長は之れを認め充分彼等をして其特殊の技能を發揮せしむ可きである。即ち音楽や繪畫、説話等に於て特有の才能をもてるものには、心より協力する様に指導されねばならぬ。

總て校長は自身より尙ほよく成し得る人のある時には決して自ら手を下すべきではない。それは謙遜を装ふ爲めでもなければ働きを回避する爲めでもなく、自ら其背景に立たんが爲めである。

【(ハ)教師會及び就任式】 教職員會は少くも毎月一回、定期に開催せらるべきである。教師會を開く目的は、一は協議の爲めであり、二には研究の爲めである。

毎回何等かの主題を設けて之れに就て互に意見を交換するか、或は特に準備したる教師が講話を試むるか、或は更に他の學校を視察したる教師が其視察報告をなすこと等により、教師會を有意義のものとなす事を得るであらう。

又校務を整理する上に於て教師の協力を仰ぐ場合、豫じめ其學期間或は其月の間になすべき事に就て協議をなし、又學校に於て舉行する特殊の會合に就ても充分熟議する事に依つて其目的を達し得るであらう。

即ち教師會は、一つには學校の充實發展の爲めであり、又一つには教師自身の教養によつて教授力を充實する所以ともなるのである。



教師會に屢々缺席する教師に對しては決して其怠慢を責むることなく、寧ろ常に其缺席に  
より種々なる點に於て自己の損失を招きつゝある事を自覺せしむるは管理上の要訣である。

教職員の叙任は新學年の始め（此前後に復活節の來る時は其の聖日等）に於て舉行し、教  
會員及び教職員をして教會の重大なる教育的事業に選ばれたる事を自覺せしむる様にすべき  
である。其式は必ずしも複雑なるを要しない。例へば牧師の就任祈禱、教會執事の挨拶、生  
徒總代の挨拶、教職員代表の挨拶を以て終るが如きものである。

【(二)日曜學校内規】 日曜學校に於て其秩序を維持せんが爲には、教師會が一の自治的團體  
として、教會の内部に堅實なる規律の下に立つて居らねばならぬ。之れが爲め各自其標準に  
すべき内規を必要とする。

余が會て試みたるは、左の如きものであつた。

一、日曜學校は教會に於ける宗教々育上の最大事業たるを認め、教會員全部の興味を増進  
し、其協力に俟ち設備内容共に漸次其發展を圖るべき事

二、毎日曜日之れを開校し所定の教案に従ひ分級教授をなすべき事  
當分其分級制度を左の如く定む

嬰兒科	男女	一組
幼稚科	男女	一組
初等科	第一年	男女 尋一
	同	第二年 同 尋二
	同	同 第三年 同 尋三
中等科	第一年	同 尋四



- 同 第二年 同 尋五
- 同 第三年 同 尋六
- 高等科 第一年 男 中學
- 女 高女
- 同 第二年 同 同二
- 同 第三年 同 同三
- 師範科 男女 一組
- 大人科 男信者組 男志道者組
- 女信者組 女志道者組
- 三、日曜學校順序を左の如く豫定す
- (イ) 開校式 二十五分

- (ロ) 分級教授 二十分
- (ハ) 閉校式 十五分
- 計一時間
- 四、開校式及び閉校式により兒童禮拜の良習慣を涵養せしむる目的を以て、教師は校長と協力し其管理に當るべき事
- 五、本校の事務進捗の爲め左の職員を置く事
  - 一、各科長 一名宛
  - 二、幹事 二名
  - 三、書記 若干名
- 六、教職員に缺員を生じたる場合は教職員會に諮り、會員の適任者を選び校長より囑託す



る事

七、教師事故の爲め缺席の止むなき場合は豫じめ代理者を囑託する事。又不得止事情に依り退職せんとする教師は約一ヶ月前校長に告げ後任者を推薦すべき事

八、毎月一回教師會を開き管理法及び教授法に關する研究をなし、且事務の整理を圖るべき事

九、毎年復活祭、花の日及び聖誕節を守り祝祭を行ふ事。同時に生徒の獎勵をなす事

十、日曜學校に家庭との聯絡を保ち、會員の子女全部を入校せしむる爲め適當なる方法を

講すべき事

【ホ】日曜學校豫定表】 各日曜學校に於て、其年中行事に關し豫定表を作り、之れに由つて着々實行を進むべきである。今左に其例を示さう。

一、教職員會（毎月第二日曜朝拜後例會）

一月二十日（日）教職員新年會

二月十日（日）研究「教育的傳道に就て」

三月九日（日）進級式準備協議

四月十三日（日）新學年度方針協議

五月十一日（日）「家庭との協力を就て」

六月八日（日）「性的教育の研究」

七月十三日（日）「青年期生徒の取扱法」

九月十四日（日）「社會的教育の方法」

十月十二日（日）「傳道と教育との關係」



- 同 十七日(祭) 野外運動會
- 十月九日(日) クリスマス準備協議
- 十月十四日(日) 祝節プログラム協定
- 一、日曜學校關係集會
- 一月廿七日 各級生徒委員會組織
- 四月十三日 進級式並教師就任式
- 同 廿七日 各級委員協議會
- 五月十日(土) 日曜學校父兄會
- 同 廿五日 花の日祝會
- 七月廿七日 各級委員會

- 十月十八日 高等科生決心日
- 同 廿六日 各級委員會
- 十二月廿三日 クリスマス祝會

【(へ)禮拜の順序】 日曜學校に於ける禮拜の順序は、一瞬間たりとも餘裕を存せぬ様周密なる準備を要する。大人が葬式に列する場合ならば何事も行はれざる時間があつても、尙ほ靜肅を保つて居るであらうが其他の集會に於ては大人も雖も無爲にして時間を空費する事には堪へ難き感を抱くであらう。況んや活動性に富める處の兒童に取つては一瞬間たりとも何等なす所なく、又何事も行はれずに靜肅を保ち得可き筈がない。禮拜順序の内、見る事も聞く事も何もなき瞬間程、其禮拜氣分を傷つくるものはない。

禮拜順序は豫め之れを印刷に付し、些の溢帶もなく進行する事を計らなければならぬ、之



れにより何れの學校も其特殊の立場に於て、獨特の順序を定む可きである。

尙ほ兒童用の禮拜書を用ふる事を得れば、種々無用なる言辭を禮拜式に用ふる弊害を免るであらう。

【ト】學校の秩序】 學校管理上其秩序を整然たらしむる爲めには細心の注意を要する。今其一例を示せば、學校の備付の時計の如きも、標準時により常に規正されてあらねばならぬ。而して禮拜を始むる場合の如き極めて自然に、奏樂或は唱歌を以て始め、全校の秩序を自ら整然たらしむる様にせねばならぬ。

それが爲めには開校前に凡ての準備が遺憾なく整ふて居る事を要する。多くの場合、秩序を紊るものは生徒よりも寧ろ教職員である。開校前の準備打合せ不十分なる爲めに、教師や書記、會計等が屢々禮拜中に動き廻り、或は校長に囁く等の必要に迫られ、自ら秩序を紊る

こゝが多い。

各級教授の時間中も、凡ての職員は之を神聖なる時間として、何者も之を妨ぐる事なき様教室を保護する事に注意せねばならぬ。之が爲めには參觀人の案内及び取扱も適當なる注意を要する。而して教授時間の終る數分前に電鈴或は鐘を以て其終りを豫告する事も必要である。之れ等は生徒をして其時間の重要な事を深く印象せしむる所以である。

管理上秩序維持の方法に就ては、後章更に詳述するであらう。

【チ】時間の問題】 日曜學校の教育の成功不成功は大に其開校の時間と關係をもつてゐる。

第一早朝に開く事は、平素激務に従事し居る教師等に對して安息日の精神を味はしめ得ざる憂あり、之れが爲めに米國の多數の教會に於ては、第二の方法として朝拜後の時間に於て開校してゐるものがある。然し我國に於ては十二時中食の長き習慣を有するが故に、教師が禮



拜の歸途に日曜學校を教ふる事は殆んど不可能と見らる。之に於て第三の方法は午後の或時間に於て開校する事であるが之れには少なからず障害が感ぜられる。何となれば多くの家庭に於て、日曜の午後は、家族全部の唯一の休養の機會であり、又兩親或は友人と共に外出するものが多いからである。故に最善の開校時間は矢張り朝拜前の時刻とせねばならぬ。此時間に於ては生徒の精神も教職員も共に新鮮にして未だ疲れを覺えず、且何人も明確に日曜學校に出席せんとする目的を以て、登校し來る故に、精神上既に成功すべき要素を備へてゐるからである。

日曜學校の開校し居る時間は、職員が一人が入口の方を閉ぢて遅參する生徒をして、校内の氣分を妨げしめる事なき様注意すべく、又全校として其時間の制限を超えざる様に留意するを要する。即ち朝拜前十分或は十五分に於て閉校する事を要する。之れが爲めには若し朝

の九時より開校するにせば朝拜式を十時十五分より開く事として、其間多少の餘裕を與ふる事は、凡ての教會に於て適當と信ぜらる。かくて日曜學校に約一時間十分を用ふる事が出来るであらう。

【(リ)級別及び進級法】 級別は主に學級の基礎に立つて別たるゝか、或は公立學校の學年に應じて級別せらるゝのが普通であるが、更に理想的にいへば單にそれだけの標準では尙ほ不十分と思はれる。同じ年齢にしても、敏活なる兒童と然らざるものとの差異が認められる。之れ等を皆一様に同じ學級に入れて取扱ふ事は寧ろ不條理である。故に理想的に、此二つの基礎を結合する完全なる級別をなすには、之れに對應する適當の設備を要し、殊に訓練せられたる教師を要する故に、級別の問題は我國に於て未だ容易に徹底し難きものがある。

進級制度を取り級別を維持する事は、更に管理上の注意を要する。即ち完全に級別制を維



持せんすれば

- 一、毎年進級式を行ふ事
- 二、半途編入生の取扱を注意する事

毎年進級させるにしても、中途より公立學校の同級生を伴ひ來るが如き場合に於て、之れを其儘に其學級に編入すれば、眞の意味に於ける級別は害せらるゝのである。之れが爲めに常に新入生を取扱ふべき一級を設け、一人の教師は常に其入學に關する事を管理し、且つ新入生に對して或明間教會或は日曜學校其他宗教上の必要なる豫備知識を與ふる爲めに努力する事を要する。新入生に必ず入學書を提出せしむ可き事はいふまでもない。

### 三、管理上の指針

【イ】管理上の目標】 管理其宜しきを得て宗教々育の目的を充分に達成せんすするには、其發展に資すべき目標を掲げて之に向つて努力を集中する必要がある。全篇を通じて之等に關し詳述すべきものであるが今先づ其總説として聊か項目を掲げて見やう。

#### 一、良施設の完備

現在の教室及び教具其他の施設を以て満足して居つてはいつ迄經つとも恐らくは大なる發展が得られない、相當の施設を缺いては管理法も充分効果を表はす事は出來ないのであるから、是非共此程度迄は設備を整へなければならぬといふ目標を一つ定めて置く必要がある。

#### 二、良教材の提供

之は教授法にも關聯する事であるが、如何に管理其の宜しきを得、又教師の教授上の技術があつても、學校の採擇する教材が其の宜しきを得なければ、恐らくは徒勞に屬する事が多



くなるであらう、故に教材の如何なるものを採用するかは管理上の一要件である。

三、良習慣の形成

管理は殊に生徒の良き宗教的習慣を形成せしむる爲めに必要なものである。若し科別禮拜の行はるゝ時は、特に習慣形成期に在る初等科なごに於ては、最も厳正なる秩序を要求して其の所謂躰をよくする事が大切である、よい品性の人ごは良習慣をつくり得た人の謂であつて、良習慣は管理其の宜しきを得なければ之を形成する事が出来ない。教師自身が身を以て其の良風の發揮に努めねばならぬ。

四、良校風の維持

寧ろ先づ良校風を建設せねばならぬ。教會の内部に於ても斯かる教師に我子女を托するは稍々不安であるこいふ者のあるやうであつては、所詮學校の發達は望まれない、又外部の世

評に於ても彼の日曜學校は斯々であるご後ろ指さるゝやうな事があつては、到底日曜學校の發展を期する事が出来ない。校風をつくるものは教師ご生徒ごである。世をして他の學校は之を知らないけれども彼の日曜學校は確かに我子弟を托して、善美なる宗教的教育を受けしむる事が出来るご、家庭よりも公立學校よりも推稱さるゝ迄にならなければ、大なる使命を果たす事は出来ない。

五、良教師の選擇

學校は人による。其の教師は學校を代表してゐる。學校の聲價は要するに其の施設よりも其の教師が自らつくるものである。故に教職員會は其の自家の標準を高い處に置いて、苟くも教會内に於て多少品性上考へさせらるゝやうな者を、如何に便利であり重寶であつても、其の團體の中には絶対入れない程に、鞏固な一團結なさねばならない。そして偶々良教師



の候補者を見出したならば、之を全教職員に諮つて後、其僚友をなすべきである。

六、我學校の發展

幾十年を経るにも同じ程度の小規模な不完全な日曜學校を繰返して居るのであつては、甚だ心細い譯である。之は其の將來に對する計畫を缺き、目標を有せず、唯漫然に舊習を墨守して居る爲めである。須らく我教會の日曜學校は其の内容に於ても、其の外形に於ても、爾々の程度迄は凡そ幾年の後に到達せしめねばならないといふ標準を定めて、之に向つて進まなければならぬ。

七、管理上の責任

全校管理の常の責任はいふ迄もなく校長の上に掛つてゐる。併しそは一個人としての校長でなくして、教職員會を代表しての意味である。故に教職員の全部は校長と共に學校管理の

責に任すべき者である事を自ら意識して居るべき筈である。此意識のない學校に於ては、所詮管理の目的を達する事が出来ない。

【(ロ)管理上の方針】 日曜學校に於ける宗教々育のやうに健全なる常識を要するものはない一方科學的研究を要すると共に、他方實際適應の能力を要するものであるが、研究家は必ずしも實際家ではない。實際家また必ずしも研究を積まない。故に教育の當事者は其の孰れかの兩極に傾き過ぎてゐる。爲めに校内の秩序を保たしむるため管理上其の中庸を見出すの必要ある所以である。殊に過渡時代に於ては何れの社會も同様、新舊思想の衝突を免れない。單純なる頭腦の者は其の間の選擇歸趣に迷はされてゐる。而して常に矛盾撞着を感じる。宗教々育問題に就ても、今は過渡期の矛盾が叫ばれて一定の指針を得難き憾みがある。併し凡そ物事には磁石の如く兩極があつて同時に其の中和點ニュートラルポイントがある。其の中庸を得て方向舵を



取るものは健全なる常識家である。革命は常に過激に馳せ保守はいつも退嬰に陥る。此間に在つて健全なる建設をなす者は、平衡を保ち中庸を得なければならぬ。之れ現下の宗教々育に於て常識的中庸を得る必要ありと感ずる所以である。請ふ今爰に凡そ數條を掲げて其の平衡を取らしめよ。

一、制度と精神

日曜學校の設備は未だ極めて不完全である。相當な教育機關たらんが爲めには更に施設を要する。又其編制や管理及び教授の方法に就ても、或は教師待遇の制度に於ても、幾多改善進歩を圖るべき餘地がある。されど設備や方法や制度が如何に完備したりして、以て直に理想的の教育が可能なりとす事は出来ぬ。否却つて或場合に於ては制度は精神を滅殺し、方法は生命を滅却せしむる事もある。曾て理想の上に立ちし教育機關も大學の制度を取り教職

員の數又その學生の數に比すべき程の發展をなしたるものにして、漸次校風の不振を來し、精神的生命の萎縮を傳ふるものは甚だ多い。教育の事素と之れ精神的生命に存する。徒に施設や方法や制度にのみ腐心して現在に於て可能なる事業を忘るゝ事があつてはならぬ。而して又精神にあらば何等の設備も制度も要せぬとす頑冥の心は打破されなければならぬ。

二、自由と秩序

管理上の要訣として、一面兒童の自由を許すと共に、反面秩序の維持を忘れぬ事は殊に宗教々育に於て高調すべき一點である。保守的の者は教育を以て窮屈なる型に納める事と心得、切りに兒童の活動を苦に病み、神經を興奮して兒童に對してゐる。又餘りに理想に馳せた教師は放任を以て自由と解し禮拜所を運動場として平然たるも者ある。兩者共に餘りに極端に走り過ぎてゐる。天真なる兒童が澁面をつくつて畏縮してゐるが如きは甚だ不自然であつて、



快活の精神は自ら發現されなければならぬ。が併し又嚴肅なる秩序を保ち禮拜の精神を喚發せしむる者がなければ、宗教的感化を及ぼす事が可能ない、兩者よく調節を得て活々したる兒童の訓育を企てなければならぬ。

三、慈愛と權威

宗教々育に於ては特に此の二者の平行共存を要する。餘りに愛に狎れて權威を失墜する者もあり、餘りに權威を振はんとして兒童の心が離反する場合もある。教師は此の兩極に陥らん事を避け、權威は慈愛に伴ひ、慈愛は權威を生むものたるを解し、兩者を自己の人格に於て調節すべきである。

四、理解と訓練

誦誦は兒童の理解し得る事に限るをなす進歩派もあり、全く經驗又は理解には無頓着に誦

誦を要求する保守派もある。訓練の爲めには此兩者又其の中庸を得なければならぬ。全く理解し悉したる事は必ずしも誦誦せしめる必要もない譯であるが、たゞへ經驗と理解に於て未だ其點まで發達し居らぬ者であつても、誦誦の能力が發達し居る場合に相當の誦誦を課して差支へない。勿論クリスマス祝會などに兒童を蓄音機の如くに使用し、大人じみた事を鸚鵡式に述べしめて、目的を達せりこなすが如きは戒むべき事である。

五、興味と靈育

興味は教育上の手段であり接觸點である。全く之を無視して大人の要求のみをなすは靈育の道ではない。同時に興味にのみ心を用ひて靈育の目的を誤つてはならぬ。お伽噺の大家等が兒童の横腹を櫛る如き事を企つるも、屢々教育上面白からぬ場合がある。多くは下品なる言語或ひは役者又は手品師じみた態度は、兒童の歡心を買ふであらうが、同時に眞の意味に



於て彼等の嘲笑を買ふ所以である。さりて児童は到底無味乾燥な單調の空氣に満足しては居らぬ。児童の前に立つ者の中庸を得たる態度は極めて六ヶ敷事である。祝祭日に於て保守家は全然演劇的分子を排し、興味中心の者は様々の事を行ふ。兩者の調節を得て、俗に流れず而も清新なる興味を興ふるは宗教々育上の常識である。

#### 六、獎勵と賞與

集合教育に於て競點的精神の喚起されるのは自然の數である。之れなくんば進歩はない。極めて鈍く優柔にして沈滞を來すであらう。獎勵は多少此児童心理を善用する事に由つて行はれる。賞牌や優勝旗等も其使用方法に由つては必ずしも有害なものではない。クリスマス等の贈物に就ても獎勵の意義を以て之に等差を付ける事に反對する者もある。併しながら無意味に物と興ふるは却つて教育上有害である。贈物は賞與の意を付し獎勵の義に解して取扱ふべきであらう。されど亦何等賞を明記するが如きは折角の聖誕節に餘り露骨なやり方である。もつと上品に清新に而も充分に獎勵の目的を達するやうに取扱ふべきである。之も亦中庸を得なければならぬ所以である。

#### 七、管理と指導

思慮足らず經驗少なき者は管理を要し監督を要する。けれども其の監督振があらはに見ゆる所には眞の監督が可能ない。管理は或要求をなして訓練を企つるに共に、又決して一種の型を鑄造して人の子を之に當符めんとするものではない。眞の監督、眞の管理は、自發的に、自治的に、自律的に正善にして優美なる行動行爲に達せしむるやう、暗示を興へ見えざる指導をなすべきものである。故に其の保護其の庇護は親鳥の翼の如くに雛の頭上を蔽ふてゐても、而も重き荷を負はずでなくして輕き軛を見えないやうに附するのである。否自己の自



由を發揮せしめて、其のうちに尙秩序を破らず、公安を妨げないやうな訓練が望まれねばならない。眞の管理なくして眞の指導は可能ない。けれども生命のない管理は寧ろ指導を與へずして秩序紊亂を來すであらう。

要するに教育は活ける人間の活ける精神を開展せしむる事であつて、殊に靈性の發育を圖る日曜學校に於ては、世の職業、實業、技術さては夫々の専門的教育に優つて、健全なる見識を要求さるゝ所以である。之れこそ眞に活ける人格の計畫と所置とに俟たねばならぬ事である。何等の生命なき施設も模型的方法も冷靜なる原理も、之には用をなさぬであらう。總てのものを活用するものは常識と見識と經驗とである。

## 一 般 管 理 法

### 一、序 説

【(イ)日曜學校の組織及編制】 教會に於ける宗教々育は我邦に於て殆んゞ普遍的に實施せられてゐる。其如何に不充分なる方法不完全なる設備を以てしても尙相應に實績の見るべきものがある。況んや之が改善進歩に銳意努力するに於ては必ずや現在に失ひつゝある幾多の精靈を神に獻げ得る事となるであらう。之れ特に管理法及教授法の研究を要する所以である。けれども管理法の如きは餘りに平凡にして解り切つたる事に屬するが故、未だ之に關する組織的の説述を見ないのである。無論方法は便宜の爲であり、時間と努力との經濟の爲に採用さるべきものである。之あるが爲に活氣を殺ぎ生命を失ふが如きは寧ろ之なきに若かない、



故に管理法も形式に走り劃一的に盲従すべき性質のものではない。唯大體の方寸を示すべき標準とするのである。

全校の管理は直接校長の責任である、學校の編成より開校前後の整頓、開校中のプログラム等皆懸つて其双肩に在る、而して更に管理の具體化せられたる統計報告の正確を保つ如きも其職責上整理せねばならない。之が爲に校長は宜しく教職員を督勵して其協力を仰がねばならぬ、殊に教務や財務に關する事に於ては充分に其事務の進捗を圖るべき職員を要する、各職員の仕事章程に就ては別に項を改めて述べやう。全責任が校長に在るに同時に少くも教職員は其幾分を分擔すべきである。殊に各級の管理に至つては其受持教師の重大なる職責である。生徒の出勤事故其他細大の事情を明かにし、或は開校閉校の式に於ける整備監督に任じ、或は新入學者の指導等に至るまで、教職員の協力なくしては到底全校管理の完全を期

する事ができない。之が爲に日曜學校に於ては屢々教職員會を催して、教授上の研究は勿論管理上の打合せをなすを要する。其他クラス會や父兄會を以て各種の聯絡協力が要求せらる、之等の詳細なる方法に就ても亦後に述ぶる筈である。

## 二、組 織

日曜學校を始めて組織する事は比較的容易な事業である。之に要するものは生徒と教師と設備とであるが、教會の存する處には大小程度の差違はあるとも必ず之等の形を備へて居ぬはない。或地方に於て定住教師が居る教會にして兒童の教育を實施して居らないものを見受けたが、之等は如何なる事情の存するにしても決して教會事業に忠實なりとは謂はれない。教會の存する處必ず日曜學校の存在すべきは自明の理である。



(1)生徒 殊に少年少女を集むる事は極めて容易である。一信徒の家庭に二三の児童があれば、直に開校し得べき程の生徒を集むる事が出来る、児童群社交的のものはない。彼等は何等の懸隔を有せず直ちに友人となる。而して其往復を楽しむ、少數のパン種は直に大なる塊となるであらう。殊に特殊の少年少女會或はお伽會の如きを一度開催すれば、僅かに街路に於ける解り易き廣告或は色紙に印刷せる小形のチラシを以て、直に百二百の児童は雲集し來るであらう。斯くて開校の運びに至つた學校も亦決して少なくない。勿論斯の如くして入り來る者が悉く望ましい生徒のみではない。併し其撰擇は後の問題に屬する。彼等をして組織的に教育を受くべき生徒たらしむる爲には、充分理解力に應ずる説明を與へ、且入學票を交附して其父兄をして入校を承認せしむる事を得ば、直に解決すべき事である。

### 日 曜 學 校 案 内

□日曜學校の目的 日曜學校は人格教育を主眼とし、幸福な生涯の源泉たるべき宗教心の開發を目的とするのであります。宗教は人類と共に存在し居るものでありますから之を養はない事は智識を養はないと同様に一生の不幸であります。

□日曜學校の必要 この大切な宗教々育をするのが日曜學校の使命であります。教會は各種學校と同様に兒童の發達に伴ふ精神的教育をする爲に日曜學校を經營して居るのであります。信教の自由を有して居る我が邦に於て公立學校が一定の宗教的教育をする事は絶対に出来ません。故に日曜學校で之を行はなければ、國民は宗教的の養ひを受くる事が出来ないであります。今日迄の國民教育の結果を見れば日曜學校の使命と責任とは愈々重大に



感ぜられます。

□日曜學校の編制 當校に於ては兒童の發達に伴ひ其心理的要求に應ずる宗教々育を爲すために左の如く級別に致して居ります。

嬰兒科(滿三才迄の兒童)	高等科一年(學齡高等一年程度)
幼稚科(學校に入る迄の幼年兒童)	同 中學一年 同
初等科一年(學齡尋常一年程度)	高等科二年(同 高等二年 同)
初等科二年(同)	同 中學二年 同
初等科三年(同)	高等科三年(同 高等三年 同)
中等科一年(同)	同 中學三年 同
中等科二年(同)	師範科(右學年程度以上)
中等科三年(同)	大人科

(備考) 嬰兒科より中等科二年迄は男女共學制を探り中等科三年及高等科生は更に男女に分級致して居ります。

□授業時間及課目 授業時間は當分毎日曜日の午前九時より凡そ一時間十五分でありまして此間に敬虔の念を涵養する禮拜を行ひ且〇〇〇〇〇〇〇〇の編纂に係はる一定の教案に基づいて學課を教授いたします。

□賛助員制度 當校に要する經費の大部分は教會の豫算より支出されますが、尙ほ父兄方の意識的御協力に俟ち教育の能率を増進せんが爲め一家庭より一ヶ月金拾錢宛の賛助金を御寄附願ふ事に致し施設の完備を期したいと思ひます。そして其家庭より參らるゝ兒童を在籍生徒とし、其他の随意出席者を傍聽生と致します。尙毎日曜に生徒の献けらるゝ献金は零碎なるものを集めて、慈善救濟等の爲めに生徒の同







保	現住所	職業	年齢	年 月 日 生	家族ノ
	姓名				祖母
護	姓 名	ノ生徒ト ノ關係	年 月 日	年 月 日	父
者	宗 教				母
右之者御校へ入學致サセ度御願申上候 年 月 日 教會日曜學校 御中 右保護者					兄弟
					人 人
					妹 弟
					人 人

年 月 日 科 年 へ編入

印

(ロ)教師 日曜學校の活材料たる生徒を得たる後、次の問題は教師を得る事である。良教師の不足は至る處に聞かるゝ聲であるが、其充分なる資格は後の修養に俟つて得らるべきである。不充分なりとも若し志だにあるならば、直に此事業に着手する事が出来る。而して實験は多くの研究を積ましめ教ふるは則ち學ぶ事なるであらう。牧師夫妻のみにも既に二人の教師を有する。恐らく如何なる教會に於ても他に數名の教師を得難き筈はない。要は興味を有するか熱心を有するかといふ事に歸着する。眞に兒童を熱愛する者は、殊に多忙なるビジネスに従事しつゝも尙其本務を缺かぬ程度に於て實際教師として努力しつゝある。官吏教員の如く日曜公休の定めある者は殊に便宜が多い。聖日の半日を優柔に過し去る者に比し、新銳の活氣に溢れたる天真の兒女等に接觸して、清き樂を頌ち其俗腸を洗ひ、精神の轉換をなし得る丈けにても教師の特權は味はれる。況んや専門學校程度の學生の如き其の美はしき



優さしき未だ世俗の荒海に打ちかためられぬ心を以て、兒童の教養に當る事が如何に自然の事であらうか。之は其環境に在る者に取り、主に奉仕すべき最善の道であるを考ふるに至らば、教師の問題は直に解決すべきものである。其後の事は漸次熟練を研究に依つて得らるべきものである。教師は其教會員の中より斯かる數名の者を造り出す職責がある。

(ハ)設備 次には此生徒を教師を容るべき設備である。勿論丸太の一端に教師が坐して其先端に生徒が掛くれば爰にも自然の教室がある。或は時に屋外に於て野外又は林間の自然の教壇を用ふる事も妙である。主イエスは屢々好んで斯かる教壇を用ふる給ふた。けれども之を其常規となす事は出来ない。殊に天候の關係もあり且都會の如きは斯かる地の利を得る事が難く、到底大道商人の如くにして教育は不可能である。之が爲には特に校舎の建設を得れば最上であら、けれども教會の存する處に於ては必ず之を善用する事が可能である。勿論今日迄

の會堂建築に餘り教育的理想の加味されたるものゝ少ない事は悲しむべき事實であつて、今後會堂建築を企つる教會は特に注意を要する次第であるが、夫にしても縦令借家の講義所に於ても、其不完全なるを成し得べき限りに於て善用する事を考究すべきである。或は教室として區劃を要する場合には幕を用ふるか、或は簡單なる屏風を利用するかに由て之を得られる。普通の家屋であつても之を教室として用ひ得ない事はない。

其他要する物は教具である。最少限度に於ても日曜學校は左の教具を備付くべきである。

一、黑板及附屬品

二、地圖(パレスチナ、小亞細亞等)

三、唱歌集

四、樂器



五、教案及參考圖書

黑板は各教室に備ふべきものであつて、極めて簡單なる小さきものにて事足るべく、或は此頃用ゐらるゝ紙黑板にても用をなすであらう。如何に之を利用するかは教師の教授上の問題である。

地圖は聖書の背景を示すものにして極めて必要である。目下我邦に於ては日曜世界社發行の四枚一組なるものを適當に認むる。之は是非何れの學校に於ても備ふべき要具である。唱歌集は普通綴つて掛けられるのであるが、其の文字の鮮明を缺き或は字體の香はしからぬ如きは改むべきである。又ザラ紙に記して全く支離減裂になるが如きは甚だ拙の拙なるものである。或は布地に木版の印刷をなす事なごは、字角の整然たる故に生徒の視覺の爲に望ましきものである。

樂器は學校の必需品である。之を教會にて得られない場合は生徒との協力を以ても購入の道を講じ得るであらう。そして其樂器が常に正常なる音階を發し、又油の切れた摩擦の音を發せざるやうに注意するは、管理者の責である。而して兒童の感情より考へ、ピアノはオルガンに優る數等である。

教案に關しては重に教授法に於て研究すべき事項たるが故に之を他に譲り、參考圖書も教授法、管理法、日曜學校歴史等に關する書物は素より更に教育學、心理學の一斑を知るに適はしき程度に於て備付くべきである。

三、編 制

生徒と教師と教案とに應じて、如何に其の組の編制を定むべきかは次の問題である。之には次の三つが考へられる。



- (イ) 單級制
- (ロ) 科別制
- (ハ) 進級制

教師と教室との止むなき限定によつて、單級制を取る場合に於ては、其管理及び教授に特に熟練と活潑さを豫想する。之は多數の分校を設けて少數を以て多くの教育をなさんとする場合に應用すべきものである。而して組織的教育といふよりは寧ろ管理法に重きを置き、兒童禮拜の方法を取るべきであらう。此場合教師は俗に所謂百人藝を試みる覺悟を要し、特に開校前に諸般の準備を缺けなき様整ふる必要がある。

科別制は教師と教室との許す限り、不充分ながらも其學齡に應ずる大體の科別をなすものであつて、少々組織立てる教育をなし得るに至るであらう。而して何れの教會に於ても少く

- 嬰兒科(生後滿四歳迄)
- 幼稚科(滿四歳以上五歳)
- 初等科一、二、三年(小學一、二、三年)
- 中等科一、二、三年(同四、五、六年)

とも幼稚科の一組を別にし、其上にも初等科と中等科の二組を設くる事は出来るであらう。そして更に青年男女の組に就ては教師の配置困難なる場合、時を更へて開く事も出来やう。そは寧ろ青年男女に取つて重きを置く所以である。

進級制は無論級別制度であるが、完全に兒童發達の程度に應ずる區分をなし、且毎學年相當の式を備へて進級せしむる事の謂である。今一般に採用せられつゝある制度を解り切つた事ながら順序上左に掲げる。



高等科一、二、三年(中學高女一、二、三年)

師範科(教師候補者)

大人科(一般男女)

其他家庭科を設けて、教會出席の機會を得ざる者に一定の課程を配付し其教育を企つるも亦一方法なれど、現在に於ては此制度の實施不徹底であり、且教會出席を斷念せしむるが如き誤てる結果を生ずるの杞憂なしとせず。家庭に在つて課程の研究をなし得る程度の者は寧ろ教會に出席せしむべきであらう。

進級式、各科の修業及び毎學年の修了に際しては進級式を行ふ事が管理上必要である。

四月の第一日曜に新に組の編成をなし、若しイースターが其附近の日曜に來る場合は、復活祭の日を進級式日とすも妙である、此日に於ては教會員全部及び父兄を招いて、當日の

禮拜中に之を行ふべきである。そして普通の學校と同様に修業證書を賦與する事は、日曜學校をして威儀あらしむる所以である。

今實施さるべきものは毎學年の進級生に與ふる訓育證書と各科の修業生に與ふる修業證書との二通りである。而して其成績標準は一年出席何回以上に訓育證書を幼稚科二年何回、其他三ヶ年に何回以上出席者に其科の修業證書を授くべく其學校の事情を參酌して賦與すべきである、其様式は左の如きものである。

例へば嬰兒科生には滿三歳以上にて幼稚科編入の際に、幼稚科は二年を通じ五十回以上、其他各科三ヶ年を通し九十回以上出席者に修業證書を、毎學年出席三十回以上に訓育證書を授與するが如きである。但し證書を與へない者をも假に進級せしむるは現在に於ては止を得ないであらう。



高等科修業者は之を大人科に編入して、日曜學校には修業あれども卒業する事なからしむるは所謂卒業信者を出す事を防禦する所以なるであらう。

訓育證書

日曜學  
校之印

何 某  
年 月 日 生

右本校 科 年に於て訓育せし事を  
證す

年 月 日

第何號

何々教會日曜學校

修業證書

日曜學  
校之印

何 某  
年 月 日 生

右本校 科の課程を修了せし事を證す

年 月 日

第何號

何々教會日曜學校  
校長 何 某

〔ロ〕日曜學校のプログラム 日曜學校のプログラムを作成すべき要素は三つである。則ち禮拜・訓育・訓練である。プログラムは此三段階を経て完ふせられなければならない。之に於て日曜學校の開校式は則ち禮拜の意義を以て之を行ひ、學課教授は訓育の意義に於てし閉校式は訓練の主意に依り執行さるべきである。素より訓練は僅少の時間に於ける閉校式に於て全きを望む事は出来ない、之が爲には自ら他の方法もあり、また時間をも用ゐねばならぬ事であるが、以上三要素は兎も角もプログラムの三綱領といふてよいであらう。之に由つて普通次の如き順序を以て組立てる事が出来る。

一、開校式(二十五分)

(修禮)

開校の歌



主 禱

讚 美 歌

聖 書 交 讀

開 校 の 祈

小 説 教

(讚美練習)

献金並感謝(献金の歌)

(分級並に出席點呼)

二、學 課 教 授(二十分)

三、閉 校 式(十五分)

讚 美 歌

發 問 應 答

報 告

閉 校 の 歌

閉 校 の 祈

(修禮)退 散

以上は一時間の割當であるが、此間の整理時間を合すれば一時間五分乃至十分を要するであらう。そして開校中の時間を斯の如き標準を以て分つ所以は兒童の禮拜に重きを置き、假令不充分的設備の不完全なる學課教授に由るも、優に禮拜のみにも宗教々育の目的を達し得べきが爲である。而してプログラムの理想は恰も珠數の糸に於けるが如く、其各部の進行が極めて自然であつて、決して侮溢の痕を示さず、又其間に連繋の糸の見えざるを主眼と



なすに在る。之が爲には各教師も常に校長と協力して、讚美歌の提示にも其他要する教具等も皆充分に之を準備し置かなければならぬ。

以下前記の各節に就て必要な注意と説明とを記して見やう。

### 一、修 禮

先づ開校式を禮拜の意味に於て行ふに方り、開校前に集合する場所と禮拜所とを異にし、整列の後禮拜所に入る事を適當とする。之は教場の都合にて成し難き日曜學校もあらうけれど、夫にても會堂の後方に整列せしめて漸次順序に由り行進する事に由つても幾分此要求を満たし得るであらう。斯くて着席するに於て始めて禮拜の氣分を惹起する事が可能る。

そして開校前よりの注意は大に禮拜の精神に影響を及ぼす事が多い。極めて微細なるが如

くに思はるゝ事が偶々禮拜を破壊する素因となる事もある。萬事は準備整ひ、恰も消防夫が自動車ポンプを整へてベルの鳴るのを待たぬ程の用意がなければならぬ。

生徒の服裝に關しても豫じめ注意を要する。之は大人の禮拜に於ても同様であるが、説教者が禮服を着用せず又聴衆は寢衣を纏へる者さへあるといふに於ては、禮拜の氣分を減殺する事夥だしい。同様に生徒が全く野遊びに出づる服裝と態度とを以ては、禮拜の精神を起し得ない場合もあらう。彼等は普通公立學校の出席に際しては、袴を着用するか或は制服を纏ふてゐる。日曜日に限り休日たるが故に其服裝までも略するは、精神上既に弛めるを示すものであり、且日曜學校を重要視する習慣の缺如せるを表明するものである。彼等はまた公立學校に於ては其履物を整頓し、草履も之を携へ往けき日曜學校に來つては、下駄を散亂し教會の草履を泥足を以て穿つ事が多い。之等は既に宗教々育をなす教會を學校と認むる事なく



極めて軽き意味に於て聖日に出席し、半ば遊戯的精神を以て總てを見る所以であつて、教育上の大なる障害である。生徒に取つて之等の革新を促すの必要あると同時に、同様の注意は教師自身も亦之を怠る事は出来ない。教師にして袴を着せざる者もあり、或は殊更に華美なるか或は格別に穢なき装をなすものもあり、其服装は例へ適當であつても、其言語動作に由り全く禮拜の精神を傷くるが如き事は得て有り勝の事である。開校式に當つて樂器のコードに合せて禮をなす場合には之等各種の注意が既に充分行届いて居る事を示さねばならない。

## 二、開校の歌

次に開校の唱を歌はしむる場合にも、歌は既に前以て揭示せられてあつて、樂手は指頭を見板キヤードにつけて、指導者のバトンの動くのを、待ち居る態度でなければならぬ。歌の番號をい

ひ、其後歌を掲げ、而して後樂手が緩々樂器に向ひ、漸くにしてブルードを奏くといふが如き迂濶な事であつてはならない。此開校の歌の如きは一校に於て必ずしも常に新らしきを歌ふ事を要しない。寧ろ或期間に一定の歌を用ゐ、之を能く諳誦し得るまでに至らしむる事が禮拜的精神を呼起す所以ともなるであらう。而して全校は指導者のバトンを相圖に、一人の如く皆聲を合せ坐作を一つにするの訓練を與へて置く事を要する。

## 三、主

### 禱

苟くも禮拜である以上は主禱を用ふるのは寧ろ當然である。之を形式であるといふて排する者もあるが、諳誦に巧みなる中等科生の如きは此主禱を共にする事に、何等の苦痛でもなく、又初等科の児童にしても主禱をよく口にする位の事は容易の業である、唯之を齊唱する



に於て能く齊調を保ち亂雜に陥らぬやうになる迄には多少の訓練を要する。先づ校長の唱ふる一句毎に復唱せしめて此習練を積ましむる事は最も適當であるを信する。

從來主禱の様式に於ても夫々の教會區々として一致せず、爲に聯合の集會等に於ては、其不揃なる甚だしきものがある。或者は「罪ある者」をいひ、或者は「負債ある」者をいひ、或は「限りなく爾の者なれば也」をいふもあれば、「保ち給ふ處なればなり」を稱へる人もある。之等は福音書の記事を翻譯にもよる事であるが、成るべく簡にして要を得たる様式を適當に信する。又之を一致せしめたいものである。其終りの頌榮の部則ち「國に權に榮は」の句は、原本に無きものあるの故を以て省かるゝのもあるが、主禱を禮拜に用ふるが爲には、禮拜用として之を附加するが寧ろ適當であらう、されば之を次の如くに一定して用ゐたいと思ふ。天にまします我等の父よ、願くば聖名を崇めさせ給へ、聖國を臨らせ給へ、聖旨の天に

成る如く地にも成させ給へ、我等の日用の糧を今日も與へ給へ、我等に負債ある者を我等が赦したる如く、我等の負債をも赦し給へ、我等を試練に遇はせず、惡より救ひ出だし給へ、國に力に榮は限りなく爾のものなればなり。アーメン

此主禱中改譯聖書のマタイ傳により負債を取れるは其意義包括的であつて、「罪」よりも稍々高尚なる禮拜の精神を協調を保ち得るからである。

#### 四、聖書交讀

之に用ふる聖句は極めて簡單にして、また意義高尚なるものでなければならぬ。例せば九福の教ミか、詩の第廿三篇ミか、詩第十九篇の律法に關する一部ミか、哥林多前書第十三章の愛の教ミか、總て斯かる名句を用ふべきである。而して交讀は生徒各自が自己の聖書を所



有し、之を持參する事を豫想し、總てに於て理想的であるが、まだ其程度に達し得ざる教會に於ては、校長の讀む聖句を復誦せしむるも亦一方法である。斯くて記憶に收めらるゝ聖句は如何に生徒の將來に有効なるものなるであらうか。

### 五、開校の祈

開校の祈禱は莊嚴の趣に、簡明なる用語に、慈愛に充てる内容を備へなければならない。聊かも輕薄なる句調があつてはならず、又繰返し言をいふてはいけない。また皮肉なる諷刺なきが入つてはならない。眞に其生徒を愛するの清き愛が迸り、過ぐる一週の間日夜に護り給へる神の恵を感謝し、此日も主の聖教を學んで清き心を作るやうに、祝福の心に満ちて祈る祈は、幼兒の心よりの願を代表する事なるであらう。各科別に開校式を擧げ得ざる場合

に於ては、其用語にも充分の注意を拂ひ、不可解の熟語を以て少年少女を悩ます事なく、而も乳臭兒の言語を以て高等科程度の子女の輕侮を招く事なきを明せねばならぬ。祈禱の間、生徒の態度莊嚴を傷け、殊に教師の瞑目し居る間は奇貨措くべしとなして活動を始むるが如きは、訓練の缺如に祈禱者其人の責に歸せねばならない。

### 六、小説教

爰に「小説教」を稱するのは、兒童禮拜に於て僅か二三分間に行はるべき訓話を指すのである。之は普通聖書の一節を題詞として、之が説明の爲に一小例話を挿む丈けの事である。尙之に由つて最もよく其聖句の精神を鼓吹する事が出来る。

### 七、讀美練習



此間に於て讚美練習を試むるは稍々不當に見ゆる。而も開校前に特に練習の時間を得る事は、往々にして不可能であつて、此時間に於ても多少新らしき歌を教へ得べきである。而も教授も決して禮拜精神を碍ぐる如き仕方であつてはならない。先づ教ふる者が唱謠を以て教示し、之を復唱せしむるによりて、優に數分間に於て、新らしき歌に對する概念を與へ得るであらう。多くの場合よく訓練されたる學校の生徒は、一つの歌を斯の如くして二回の日曜に覺え得るものである。此場合に於ても指導者の成功はオルガニストの機敏なる協同に依つて贏ち得るものである。

#### 八、 献 金 感 謝

献金を禮拜の一部に加ふるの可否に就ては、從來金錢を輕んじ來りたる習慣的感情より鬼

角疑惑を惹起する問題である。之が爲に或は禮拜の威嚴を損し、或は賤劣なる印象を與ふる如きあらば、之を行はざるに若かぬはいふ迄もない。併しながら之に由つて感恩の精神を表現し何等かの奉仕をなし得たる法悦を感じしむる事を得ば、之は極めて尊重すべき禮拜の一要素である。故に献金に於ては常に其金錢以上の高尚なる理想が發現せねばならない。

献金を此順序に置くは故なき事ではない、前述の意義を帶びしむる爲には、是非とも之を禮拜の間に行はなければならぬ。各級の教授の終りに之が集金をなして、其儘に放置するが如きは何等教育上の意義を有せぬ事なる。そして禮拜の精神の整はざるに先だち、徒らに之を行ふは必ずしも高潔なる印象を與ふる所以ではない。而も之を長く生徒に所持せしめて集めざるは屢々生徒に餘分の心配を持たしむる事であり、且時には之を落して騒がす事もあり失ふて泣く者も出てくる故にプログラムの此時に於て之を行ふを最も至當に考へる。而し



て之を行ふ場合、教師は全校生徒に其機會を與ふるやう注意せねばならぬ。教師の手の届かぬ爲に献すべく所持せる金を捧げずして持ち歸る場合には、甚だしき精神上の悪影響を蒙らしめ古へのイスラエルが餘分のマナを拾ふて腐れる如く其心を腐らすものなるであらう。

此献金を途中に於て消費せしめぬやう献金に興味を覚えしむる事は又大切なる注意である或は之を蓄へて菓子代さなし芋代さなさんとする生徒もあらう。芋や菓子に勝つて捧ぐる事の清き樂を有せしむるは、管理上の一秘訣である。之が爲には献金の使途を明瞭に報告するの必要がある。或者は教師の收得になるものと思ふて月謝の代りご解し居るもあらう。或者は學校の費用に充つるご考へ居るもあらう。献金は其用途が如何にもあれ兎に角全校生徒の知れる事若くは賛成せる事に用ふべきである。之を慈善の爲に用ふる場合には其慈善團體よりの謝狀を公表する事に由つて、大に教育上の意義を附加する事なるであらう。

單に生徒の理解を要するのみでなく、父兄も亦之を了解して貰はなければならぬ。故に少くとも年一回は全部の收支決算を添へて、生徒の捧げし金が如何に有効に使用せられたるか各家庭に報告せねばならぬ。之を缺けるが爲に家庭に於て誤解を來す事がある。又日曜朝毎にお金をご要求する子供に對して、無意義に叱責を加ふる親も出てくる所以であつて斯の如きは皆學校管理者の不注意の結果さいふべく、決して献金そのものが悪い譯ではない。此事に就ては尙其實例を後章に於て示すであらう。

献金を集むる間は奏樂もよいが更に生徒に低聲を以て献金の歌(第二篇二五三の如き)を歌はしむる事は雜駁たる感想を防ぐ所以さもならう。此時各級教師は全部一齊に起つて其受持の級の献金を集め、之を講壇に運び、校長又は主任は之に關して直ちに簡短なる感謝を捧ぐべきである。斯くて献金の餘弊を矯めて之を教育上に善用する事が出来る。



### 九、分級及點呼

斯くて開校式を終るに同時に各教室に夫々分級すべきである、此場合喧嘩を防ぐ爲には奏樂に依つて靜肅に各其部署に就かしむる事を要する。そして直に各擔任教師は出席點呼を行ふべく、新に來校せし者は之を傍聽生として、其入校の手續を了し完全なる生徒と爲す迄に一二ヶ月の特殊なる注意を怠らぬやう心懸くべきである。

### 一〇、學課教授

次のプログラムは學課教授であるが、之は全く教授法の範圍に屬するが故に爰に之を述ぶる必要はない。唯各級に別れて教授をなすに當り各級別々に祈をなすは全校統一の祈に比し

て夫々の程度と其級に應ずる問題の爲に適當せる用語を以て之を爲し得るの利多大なるを認むる。但し長き祈を以て教授時間を蠶食するは甚だしき迂濶といはねばならぬ。

### 一一、閉校式

若し閉校式が開校式も同様、幼稚科は無論の事であるが、初等科中學校高等科と夫々科別に舉行する事を得るならば、訓練又は發表の機會として其價值を増大するものである。斯く區分し難き場合に於ても少くも青年(高等科)と少年少女(初中等科)とは之を別になし得るであらう。

先づ讚美歌を用ふる時、此歌は特にプログラムの連絡の爲に歌ふのではなく、學びし眞理に對し實行を誓ふ程の意義あるものとなす事を要する(第一篇三十三の如きは意義透徹して



ゐる。そして發問・應答なすを場合進級制學課を用る居る學校に於ては、其日の學課につき統一的の質問を試むる事は出來ない。併し他の一般的問題に就て學課應用の道を指示してやる事は校長の技能である。

報告は幹事の明瞭なる音聲を以て能く徹底せしむる事を期せねばならぬ。當日の出席數や献金高、さては前回との比較や献金の累計高等は、皆之を黑板に明記して報告し得れば有効である。而して之は皆獎勵の爲に善用する事が出来る。

次に用ふる閉校の歌は極めて簡短なるをよしとする。則ち第二篇第二十番の如く、唯一句にて其精神を發現するものが適當である。

主よ家路につくまへに　ひれふし祈りまつる　また此處に集ふ日まで、  
われらを護り給へ　朝に夕に　アーメン、アーメン

閉校の祈は簡短明瞭にして、此一週間總ての惡き過失より愛する生徒を護らせ給はん事を祈る至情より迸るものであれば、直ちに其目的を達する所以である。斯くてプログラムを終つて修禮退散をなす。此場合よく小さき者より先に各級順に秩序よく退散せしめ、入口の混雜を避けしむる注意を要する。

以上開校中の管理の爲に、ベル又は鐘を用ふる者もあるが、其使用には充分の注意を要する。若し之を濫用して數回ベルを鳴らしても尙整理の届かぬが如きは、管理者の失敗さては威信の失墜を意味するのであつて、苟も之を用ふる場合は全校直に襟を正すほどの訓練を豫想せねばならない。開校中の一時間教師の協力に支持せられて、校長は其全努力を之に集中するのでなければ、到底満足なる管理をなし得る望みがない。



## 管理上の要項

學校管理は教育の基本である、管理が行届かぬ處には理想的の教育があり能はぬ。管理は習慣の養成より進んで意志の訓練を得べき重要な教育上の要件である。教授法に關する諸問題は管理法と相俟つて始めて有効なるを得るのである。人の能力を適當なる方向に開發し一定の意志の活動を指導し、訓練上の要求を滿たし、習慣の形成に資する事は、管理上の方針であつて、それは彼が知識範圍の擴大よりも、其觀察力の訓練よりも其推理力の發達よりも、人に取つては必要な教育とみなるであらう。之れが爲めには管理上の細末に亘つて考ふる必要がある。

### (一) 生徒の管理



教室以外に於て學校全般に亘り注意すべき事項は極めて微細なる事である。されど學校教育の目的を達成する爲めには其微細なる事より始めなければならぬ。

(4) 整列 開校前に於て整列せしむる場合には、其隊形の整然たるを要する。生徒は互に押したり牽いたり話したりする事を絶対にせぬやう指導されなければならぬ。然らざれば整列の目的は無意味に終る。若しも其列より離れ、或は通常の地位に居らぬ生徒のある場合、教師は絶対に其生徒に手を觸るゝ事をせぬやう注意すべきである。生徒を捉へて列に押込むが如きは極めて將のよき方法ではあるが、それは悲むべき過失である。斯くして生徒に悪感情を起さしめ教師自身は其威嚴を損し、得る處甚だ尠ない。生徒をして自尊心を傷けざらしむる爲めに、管理上の要件として生徒は自身の行動に關し、絶対に自己の意志により動く事を保障されねばならぬ。教師自身が一度押し且つ引き又は指を以て突くが如き事をなさば、如

何にして生徒の斯くなすを矯正し得るであらうか。

(ロ) 姿勢 行進に際しては其姿勢の正しきを要求する。首を直立せしめ肩を後ろに引き兩手を兩脇に垂れて自然に振り眼は其前方を注視するやうにする軍隊的訓練は、自ら精神状態の正常を保たしむる所以となる。又教室内に於ても姿勢の正しきを要求する。前列の者に倣ふて一直線に並ぶか、又は左右に倣ふて列をなし、一人も後ろに倚り又は壁或は机にもたる如き態度の者なきを要する。

行進に際して爪先を以て歩む如きは注意せねばならぬ。斯かる悪戯が習慣をなせば、彼の軟かき足指は外方に彎曲する虞さへなきに非ずといふ。

若し階段を昇降する如き場合には、活氣に満てる兒童は、自然二三段を一ミ股に歩まんとする傾向がある。



斯かる者には前以て如何に一段づゝ昇降すべきかを説明し置く必要がある。

教室に於て發言する場合には常に起立して正しき姿勢による事を要件としたい。

讀書其他凡て手に物を持つて之れを見る場合には、其書物等を左手に支へ少しく後方にして起てる姿勢が最も健全である。

其讀書をなす時は書物を餘り眼に近づけぬやう注意せねばならぬ。こは近視眼をつくる所以である。歐米に於て十八歳の者のうち六〇%は近視眼になつて居るこいふ。之れは常に教師側に於て注意を怠らぬやうすべきである。而して光線は生徒の左前方より採るやう心懸くる事を要する。

(ハ)整頓。軍隊教育の一の結果は秩序を重んじ整理をよくするに至る事であらう。それは管理上の訓練が齎らしたるよき習慣である。宗教々育に於ても美しく清潔に、規律よくなす

事は、單なる知識を得るよりも遙に必要な事である、學校内に紙屑や其他の雜品が散亂し居るやうな事のない様にするのは、生徒の責任とされねばならぬ。

其級に於てせらるゝ總ての處置は、或一定の方法に準標すべきである、物を置く事も精密に同じ様に規律よく配置されねばならぬ。或者は組織や方法は獨創の心を抑へ、個人性を滅殺する虞がある宜しく自由放任にして、其個性を發揮せしむべきであるを考ふるであらう。されどそれは自己の生徒を充分よく管理し指導する事を得ない辯解の辭に過ぎない。組織や方法が其儘直に自由獨創を破壊するものではない。それは寧ろ眞にその開發に資すべき所以なるべき筈である。

## (二) 遊戯の管理



從來屢々管理上行届かなかつた點は遊戯の時間である、開校前の遊戯なるものが、教育上重大な意義を有する事は、近來著るしく注目さるゝ事となつた。

遊戯場に於て能く指導し制馭されたる生徒は、教室に於て管理し易きものである。粗暴なる行動をなし、無作法なる言辭を弄し、或は學校の備品を傷け又は破壊なごして、横暴を逞ふせる者が、時間になつて直ちに禮拜や教育の氣分に納まりかへる事は到底不可能である。學校の管理と相俟つて開校前の生徒を管理する教師の當番は極めて必要になつてくる。教師の遊戯場に居らない事は教室に缺席するよりも優つて有害である。

最近歐米に於て遊戯が重大なる教育の意味を有する眞理を尊重し、公けに兒童遊園を設けて教育家の管理に委ね居るものが多い。由來牛津大學の如きは遊戯を以て紳士の訓練の一方とした。宗教々育に於ても亦適當に教師を配置し遊戯時間の利用を考へねばならぬ。

兒童の遊戯を管理する教師は、全く兒童の間に身を伍して其遊戯に充分の同情を有せねばならぬ。そして其間惡を抑へ善を伸す爲めに常に意を用ふるのである。斯くて兒童は將來人生の大なる戰場に於て、其同輩と共に競技をなすべき事を學ぶのであつて、自然紳士的態度を以て養はるれば、同じ態度を以て生涯を貫くであらう。斯く教師は兒童と共に遊ぶ間に其目的を達すべく、兒童と遊び得ぬ教師は眞に彼等を了解する事が出来ない。

### (三) 教室内の管理

-[ 87 ]-

教室に於て教師は自身の居所に注意せねばならぬ。其位置に於て級生全部を見得る所、恰も三角形の頂點に當る所に居を占むれば管理上全級の視線を一身に集むる便宜が得られる。教ふる間の姿勢も亦考慮を要する。或者は間斷なき活動振りで教室の端より端まで動き廻



り或者は石佛式に坐禪を組んでゐる、管理上及び健康上教師は立つて教をなす事が當然に思はれる。

教師はまた自己の生徒の成績不良なるを以て、自ら耻み感ぜねばならぬ。公立學校に於ても採點に方り全級不良の結果を見たる場合は、教師の教室管理が不徹底であつた事を立證する。されば教師は自己の級の不都合なる事を生徒や父兄や同僚にさへも咄き訴ふる如き態度を持してはならぬ。そは直ちに一般の嫌忌する處となり、常に他に不愉快なる感を與へ、同時に自己の管理上の技倆が缺如せる事を告白するに過ぎない。咄く事の代りに先づ自身の取るべき方法處置を學ぶに若くはない。

教師はまた餘りに些末なる事を生徒の過失にして口やかましく罵る如き、或は怖ろしき様子を示して叱咤するが如き態度を避けなければならぬ。斯かる方法を以て管理の理想が達成せ

らるゝものではない。生徒の過失を處置する場合に於て偶發の事ご不注意による過失ご故意に企てたる過失ごを明瞭に區別して機宜に應ずる處置を取らねばならぬ。其過失に對し制裁を加ふるさいふ場合も大に考慮を費さねばならない。公立學校に於て能く遊戯時間に教室に残留せしむる如き事を見るが、遊戯時間に生徒は教課後其衛生上精神上の要求から外出の特權を有してゐる。教師が勝手に其權利を剝奪するは教育家として爲すまじき過失である。

或教師は生徒の前に全く威信を失墜して、事毎に或は校長に訴ふるを以て生徒を威嚇し或は採點の關係を云爲して之れを制馭せんとする。幸にして宗教々育上斯かる誘惑はないとしても、要するに自己以外の何等かの權威の陰に於て管理を爲さんとする心持は、既に教師としての失敗を意味する。

教室管理の間に生徒より他の者の不行跡を聞く場合には細密なる注意を拂はねばならぬ。



それが眞實の報告であるならば之れには眞の道義的勇氣を含んで居る事を察すべきであり、それが人を誹謗するが如き賤しき私心の動機より出づる「告げ口」であるならば教育上、由々敷一事件と見做さねばならぬ。

教室の管理を充分に爲さんとする教師は、開校前に出席する事を要する。前既に述べたる如く開校前の管理は極めて重要であるが、教師が遅刻する事は悪い方策であると共に悪い實例を示す事となり、教師としての其權能を損し、教育上の効果を殺ぐ事となる。縦令他の教師が管理し居るにしても、自己の教師の居らぬ場合級生の心は既に一種の不秩序を覺える。況んや開校前に全然惡戯をなして過す者が、遽かに教室に入つて能く管理せらるべき理由はない。

教師はまた自己の習慣に就て常に反省せねばならぬ。彼自身が生徒の模範である。其學課

よりも何よりも其儘の彼の態度は、管理上大なる關係を有する。其服裝の如きも華美ならずまた汚穢ならず、能く清潔を教ふる模範であらねばならぬ。

教室管理の必要上暗示を與ふる事に留意すべきである。暗示に由り得る場合に、常に命令を下す事は教師の過失である。多少の進歩を見たる場合には之れを賞賛する態度に出でなければ、生徒の協力を望む事は出来ない。斯くてせらるゝ教師の要求は必ず其半ば以上の生徒によつて直に實行せらるゝであらう。

#### (四) 課業中の管理

##### (イ) 秩序の維持

(一)、良き秩序は教師と生徒との間に完全なる理解のある事を豫想する。教師は自ら經驗及



び學識に於て生徒よりも數年の長あるが故に、權威の中心を認めらるべき管である。軍隊が秩序を紊れば亂軍となり民衆が之を破れば暴民となり、事業が之を離れば廢頽を免れない。總て秩序なき處には訓練があり能はぬ。之れは品格の上に重要な結果を齎らすものである。凡そ教師の努力の半ばは常に生徒の不注意なるを憂ふる事や、其不秩序を恢復せんとする努力にのみ費やされてゐる。教育上の經驗に徴して教授の前に先づ良き秩序の維持せらるゝ必要が高調せられる。現代の憂は滔々として秩序の混沌に陥らんとする事に在る。

(二) 秩序を得る事は秩序を維持する事は自ら異なるものがある。新らしい教師が生徒の前に立つ時に生徒は能く秩序を保ち居るであらう。併しそは教師の總ゆる事を研究し居るのであつて、決して學課によつて秩序を得たのではない。則ち秩序の維持は教師の行動及び態度によつて得らるゝものであつて、其言葉に由つては一時的秩序を得る事があつても、決して之れを維持することが出来ない。

(三) 良印象を與ふる事は秩序維持の有力なる動機となるものであるが、之れには左の如き注意を要する。

(イ) 教師の言ふ處に疑惑を懐かしむるやうな事があつてはならない。教育家は遠かに二枚舌を用ふるやうな過失をなし得ないであらう。けれども教育行政官の斯る過失が教育界に及ぼす影響は甚大であつて教育の權威は失墜して仕舞ふ、況んや教師が聊かでも其廉直な事に疑惑を挾まるゝ如き態度があつては怖るべき不祥事と謂はねばならぬ。

(ロ) 教師は常に一定の而も變化あつて又必ずしも新しからぬ作業を與ふる事によつて不秩序に陥る弊害を免れ得るであらう。訓練の爲めに與ふる作業は一貫せる目的を要する。けれども同時に其目先を新にして倦怠より救はなければならぬ。



(ハ)教師は常に生活の總てを見て居らなければならぬ。之れは前にも述べた處である。

(ニ)成し得れば罰を避けた方が、よい印象を残す所以である。之れに就ては尙ほ後に述べやう。

(ホ)教師は其取扱ふ問題に關しての權威者として認めらるゝやうでなければならぬ。

(ヘ)教師は常に快活で愉快らしく方便主義や義務的でなく、同情深き態度に居らねばならぬ。

(四)、教師は生徒の指導上彼等が常に秩序紊亂を好むものゝなす過失より免れねばならぬ、生徒は不秩序よりも秩序を好むものである。彼等自身が幼き時より訓練上の理想を持つてゐる。斯くて幼兒も亦人形に對してさへ嚴正なる訓練を與へんとして居る事は屢々目撃する處である。唯其要求せらるゝ處が愉快に幸福に感ぜしめらるゝやうでなければならぬ。則ち訓

練は嚴正であつても、過酷であつてはならぬ。生徒を尊敬して之れを信任せよ。彼等を學校の規定に教師の指導に順良なるものとして取扱ひたる爲めに來せる失敗は、彼等を疑ふよりも寧ろ望ましい事である。教師が其威信を失ふ最大の捷徑は生徒を極端に放任する事である。一定の制馭の下に置き得て始めて尊敬に價する。

(五)、屢々陥り易い過は秩序といふ事が完全なる靜肅又は不活動を意味するやうに思ひ做るゝ事である。單なる靜肅は停滯遲鈍を意味する。要するものは斯かる死せる秩序でなくして生命の充てる秩序である。

完全なる秩序は或程度の音響を調和すべきものである。製造工場は非常に騒がしく、又労働者の活動は著しい。而も其全部を通じて一定の秩序が保たれてゐる。斯く抑壓の秩序維持にあらずして、作業の組織立てられたるものを良き秩序といふのである。



(六)、秩序を得んとする爲めに生徒を驚かすが如き方法は甚だ拙なるものである。或教師は机を打ち、或は床を踏み鳴らし、或は靜に靜にミ連呼し或は鈴を鳴らす。生徒の活氣は之を指導せねばならぬ。教師自身が痼癢を起したり、或は感情の爆發を來したり、或は自分から秩序を紊るならば到底收拾すべからざるに至るであらう。之れ屢々群衆心理に依つて動搖する暴民の取締に於て演ぜらるゝ失敗であるが、教育界にも亦同様の事例が多い。

或者は生徒の騒がしい場合に更に大なる音を立て、之を抑制せんとする。けれども非常に怒鳴り居る親の聲は、靜かなるさゝやきの戒めよりも反響が少ない。口やかましき監督には雷なさいふ綽名が附せられて、更に鞭に釘打つ程のきゝめも感ぜられなくなるであらう。教師自身先づ秩序を保たねばならぬ。

(七)、秩序維持のために假令靜かに爲さるゝにしても一般に叱責するが如きは避けねばなら

ぬ。之れを紊る者は極めて少数者である。其始められたる時に直ぐに之れを靜むるやうにすれば大なる混亂を免れ得るであらう。其意味を以てする一瞥により、或は其生徒に適當なる發問をなす事は依り之れを制止し得べきである。

教師は屢々其級の不秩序を辯解する。參觀者は常に之れを耳にする。此級の生徒は殆んど手に合はぬ者であるといふ事を。而して「手を下に卸して」ミか「此方に向け」ミか「正しく坐れ」ミかいふ命令はよく教室に響いてゐる。斯くて恢復したる秩序は決して永續すべきものではない。

一は喋舌り、説教し、叱責して秩序を呼び、罰を以て怖し、他は自然の法則に従ひ、良き組織に注意深き識見を靜かなる自制の協働に依つて秩序の維持を期する、其孰れが有効であらう乎。



斯の如き技倆は自然の賜であつて何人も之を有する事の出来ぬものであるといふ人もあらう。されど生徒の身體的の快感と其自然的の傾向と、兒童の特質とを解し、之れに甚深の注意を拂ふならば、何人とも或程度迄の成功を齎し得るであらう。

(八)、秩序恢復の信號として鈴を鳴らす事は避けねばならぬ。それは教師の聲の代りに開校又は閉校の相圖として用ふる時には効果がある。けれども二三人不秩序になつた場合に之れを鳴らすは、全級の生徒に迷惑を及ぼす事となる。

(九)、次には訓練上終始一貫せる方針の明瞭ならん事を要する。或者は意志力の行使に間歇的であつて品格のバッテリーは聯絡を失ふ場合がある。意志の發動に於て教師は暴君にあらずして、治者でなければならぬ。則ち一定の主義又は法則の下に一貫せる方針に據らねばならぬ。

一旦命令を發した以上總ての者が之に従ふた後でなければ、他の命令を與ふる事はよくない。

命令は服従を要求する。そしてそれは直に明確に實行されねばならぬ。規則の嚴守は自ら之と異なる、それは自己意志により意識的に行はるべきものである。

(一〇)、或教師は自身の面前に於て生徒が操行善良なるの故を以て得意とする。それは彼が其意志力の制裁に依つて生徒を制馭して居る事を意味する。而して斯かる緊張時は永續する者ではない。器械は終始最高壓を以て走られる者ではない。張りつめたものは又弛んでくる。

多くの少年が家に在る時は母の監督父の嚴格なる意志によつて制馭されて居る。けれども一度父母の膝下を離れたる時其の緊張味の弛緩と同時に、誘惑の乘する處となり容易に墮落に傾く虞がある。それは自己的政府則ち自治心の訓練が缺如せる爲めである。其の訓練は唯



外部的であつた爲めに應用が利かない。秩序よき學校よりの出身者が屢々斯かる缺陷を示すものもある。生徒の裏に在る自制心を充分に開發せよ。之れ眞の徹底せる訓練である。

(一一)、餘り多くの規則を設くるが如きは避けねばならぬ。生徒も教師も其の煩瑣に堪えられぬであらう。双方共に之を離れて到底之を實行し得ないならば、それは教育上由々しき過失である。何さなれば、既定の規則に背く事を以て一些事考へしむる處には善良なる國民が養成され得ないからである。

(一二)、教師が餘り高い調子で話をする事は秩序を棄す一因である。教師自身が斯くて疲勞を來し、中途より下げられぬ爲に自然單調に流れ、生徒の注意は彷徨ひ始める。

それは生徒の側に於て同様に高い粗い調子を誘起し、殊に兒童の神經組織には不良の結果を齎らす。故に、音聲の高さは寧ろ自然的に低い會話の調子を最も適當とする。

けれども同時に音聲は品格を表はすものであつて、聲が弱いために品格の弱味を示すやうであつてはならない。聲咳に接するこいふ處に教育がある。其の音聲は常に訓練されたる意志の表現たるべきである。

音聲による總ての表情は其人の精神を傳ふるものである。

(一三)、教師は其の全級を同時に自己の視野の中に置くやう注意せねばならぬ。

屢々眼は其の活動によつて全級の管理に任ずるものである。其の眼ざしにより一種の力が傳達される。目が物を言ふのは必ずしも戀人の間の問題のみではない。さればして教師が役者の如くに餘りの技巧を用ゐては其品位に關する事もある。舌は其の目の働きを補助する事が出来る。併し前にも述べし如く或場合には沈黙が却つて雄辯である。人の唇は嘲笑又は輕侮の表情に用ゐられる。之を注意せねば教師は屢々不用意に兒童の自尊心を損傷する事さな



る、要するに眼は凡て級に於て行はれ居る事の全部を知らしむるやう活動せねばならぬ。「目の黒い間は」いふ熟語の如く、教師の目が開いて居ればよく訓練が行届く筈である。

(四) 活動上の管理

児童は活動を以て其生命を表現する。活動の指導は教育訓練上の一要件である、近來教育心理學界に於て遊戯を教育上の最も重要な機会を考ふるに至つたのは、能く此の本能の善用を圖つたものである。

(一) 児童をして半時間も同一位地に靜坐せしむる事は大なる誤りである。

不愉快な又は不自然な地位には縱令一分時たりとも児童を強いて抑へ置くべきではない。それは生理的に有害なるのみならず、其精神上に及ぼす悪影響は極めて重大の意義を有する。死せる不活動の下に在る児童を以て大人らしい良い子となした舊思想より教育家の總ては解

放されねばならぬ。斯くては活ける児童を死せる人形に化し去る者である。児童は發達の或期間には活物教時代の生活を繰返す者もある。人形さへも活物を見ずしては満足せぬ幼児もある。其の好む者は家禽動物であり、活動寫真であるのも當然である。其の意識の流れは急湍の如くに速かである。之に靜肅を要求する場合には常に活動の元氣を轉換せしむる事に注意せねばならぬ。同一の状態に餘り長く止むる事は何等訓練の目的を達す所以でない。

(二) 教室内に於て指導なくして遊ばしむる事は一の過失である。

特に日曜學校の校舍は多くは教會堂であつて、爰に管理なくして児童を放任し置く事は、禮拜の氣分を準備する所ではない。否開校式の精神は既に破壊されて仕舞ふ。さればにて半歳の間雪の中に在る北國の如き地方に於ては、到底室内に於て遊ぶ事を禁止する譯には往かぬ。爰に賢明なる活動性の轉換が企てられねばならぬ。或は圖書の閲覽をなさしむるか、



或は唱歌の練習をなすが、又は他の方法を講ずる必要がある。又室外に於て開校前に遊戯をなす事も亦餘りに亂調になれば、入場して直に禮拜の空氣を作る事は不可能になる。故に活動性は常に之を善導するやう心懸けねばならぬ。

(三) 兒童に相互扶助をなし、單調を免れしむる爲めに互に囁かしむるは誤りである。

斯くすれば自己發表の爲めにはなるが、低聲で囁く事は之を制限する事が出来ず、遂に底止する處なきに至るであらう。又兒童は互に教育をなす事は出来ない。大人であつても人を教ふる事は少數者の特權たる程に困難な事である。更に教師代りに教へさするやうな事を一人に許せば偏頗に陥る弊を免るゝ爲めに之を全部の生徒に許さねばならぬ。而もそは到底不可能である。且つ兒童が他の者の眞似をする習慣を養ひ、自發的に考ふる事を止める餘弊も起つてくる。

(四) 不斷に兒童の活動を抑制する事は過失であるが、教育家の間には次の如き三種の人々がある。

(イ) 或者は全く自由を許す事を否定し、自然に湧き出づる自由の傾向をいふ源泉を閉塞して仕舞ふ。

(ロ) 次には他の極端に馳せ、兒童を全く放任して、兒童自身をして其生命を開展せしめよと爲す者がある。而も餘りに放任して置けば悪しき方向に流れ去る危険のある事を認めねばならない。

(ハ) 第三の者は最も適當の方法を取らんとする者であつて、自然的能力の充分なる開發を期し、之が自由行使を指導する。而も外部よりあらはに見ゆる程に形式的の指導や干渉をなさぬ處に其秘訣がある。斯くて其の流域は誤りなく導かれ、其の中は廣く其の流れは深



く、其の動力は強くなる。故に餘りに眞面目過ぎて微笑だも浮べ得ぬ者もならず、さればして節制なき騷擾の人にもならず、極めて善美なる品性が發揮せられるであらう。

(ハ) 制裁 上の 管理

兒童の活動に關連して常に考へられねばならぬものは之に賦課される制裁の問題である。活動する兒童は直に悪戯小僧に誤られて、常に制裁を蒙らねばならぬのが今迄の世の中である。併し之には充分の注意を要する。

(一) 兒童を嘲笑する事は大なる誤りである。

兒童の爲せる過失は悪戯を爲す事、教課を忘る事、校則を破る事である。之等の過失をなせる場合、之が訓練の爲には何等かの形に於ける制裁は必要であるが、公然之を嘲笑して其の懲罰をなすが如きは誤りである。何となれば斯くて兒童の同級生間に於ける尊信は奪

はれ、其の自己評價に於て著しく低下して、卑下せしむるに至る。凡そ兒童の自尊心を傷くる處には教育も訓練もあり能はぬ、嘲笑罵言は直に丹毒の如く凡ての者の品性を害する。

(二) 理由の説明を與へずして罰を與ふる事は誤りである。

公立學校に於ては常によくあり勝の事であるが「休み時間に教場に残れ」或「止めなければ點數を引く」といふ威嚇が行はれる。米國の或大學に於ても「實驗室に青の高帽があつた。或小學校でも馬鹿帽といふのが用ゐられる。級生中の悪戯者に之が冠らせられる。

何故に斯く罰せられなければならないかを説明するだけの時間を取らねばならぬ。懲罰は法理上の制裁であるから、そは法理に適ふて行はるべきである。即ち之れを受くる者は何故に之を受くるかを聞く権利がある。

處罰の成功はそれが善き結果を齎した事に由つて知らるゝのであつて、能く苦痛や耻辱を



與へ得たこいふ事ではない。與へた苦痛の量が處罰の目的を果したものとみなすは大なる謬見である。處罰された者が其過失や罪の性質を了解し、之れは當然之れ丈けの制裁を受くる價値があるこ、其公平を自覺するのでなければ制裁の目的は達成されたものでない。然らざれば教師が殊更に自身にのみ辛らく當るこ誤解したり、或は教師の偏頗を恨むやうになるであらう。制裁を急いで與ふれば屢々不公正の處罰をなす惧がある。然らざるも急に與ふる制裁は教師の性格に沈着を缺ける事、人を愛する精神の足らない事等を暴露する。又説明はいつも處罰に先立つやう時間を経れば、誤れる適用をなす弊を免るゝであらう。

#### (五) 校外の管理

學校内に於ける理想的の管理は、校外家庭と公立學校と一般社會との聯絡に俟たねばなら

ない。校外に於ける生徒の生活に關する管理なくしては日曜學校の教育も不徹底たるを免れぬ。一生徒が屢々爲す過失を其父兄の側に更に關知せしめない事は教師側の誤りである。教師と父兄とは協力に依つて改善を圖らなければならぬ。通信の利用訪問の努力は此間極めて必要である。様々なる誤解が生徒に依つて家庭に運ばれてゐる。相互の理解は望ましい。されど此場合餘りに些々なる事の爲めに父兄を煩はしたり、或は憂を掛くる事も亦過である。其態度は飽迄協力であつて「賢い子であるけれ其此點に注意を願ふ」こか「よく勵むけれ共此事に於て家庭と協力したい」こかいふ愛と信任の態度を以て接する事を要する。

凡そ父兄との交渉に於ては短氣を戒めねばならぬ。父兄側にも随分教育の理想を有せぬ者があらう。殊に宗教の教育に對して輕侮の態度をさへ示す者もあらう。教師は神の愛の如き愛を以て之を忍ばねばならぬ。又先にも述べた様に父兄は主として兒童の言ふ處に依つて



教師を判断してゐる、時には誤てる印象を受けて居る。

× × × × × ×

家庭との聯絡に就ては學校管理の必要上、其充分なる理解と努力とを致さしむるために、尙他に取りべき方法が種々あるであらう。或は賛助金取扱に關しても、或は献金又は誕生献金等の實施に關しても、或は其生徒出席缺席の成績通信に關しても、教務の側に於て爲すべき方法が多々ある、夫等は逐次其各項に應じて説明を試むる事とせしやう。

尙同じ生徒を取扱ふ上よりして日曜學校が公立學校と或種の密接なる關係を結び、或は其協力を促進する方法を考究する事が極めて緊要であるが、之に就ても更に項を改めて述ぶる事とする。

## 各科管理法

### 一、嬰兒科管理法

【(イ)組織】嬰兒科は誕生後幼稚科に入る迄の嬰兒を入籍すべき科であつて搖籃組Cradle Rollとも稱へられる。素より斯かる嬰兒を必ず毎日曜出席せしめるこいふのではないが、其登録と共に家庭との協力による責任の感を増し、又時々母親が伴ひ出席する場合、嬰兒科の教師が其嬰兒を預つて教育的の玩具を以て聖き空氣中に保育すると共に、母親をして安堵して禮拜に列席せしむる一舉兩得の結果をも得らるゝものである。故に其設備としては普通一室を之が爲めに備へ、爰に乳母車の如き搖籃を置き、其部屋を極めて清潔になし、又宗教的高



尙なる額を掛け壁紙や窓飾り等も亦兒童に好印象を残し得べきやう特に注意を拂ひ、且美はしく表装したる名簿掛軸を備ふるものである。爰には科長と其助手一二名があつて嬰兒の爲に奉仕する。教師は又必ず其子の誕生日に家庭訪問を企つべく、且適當なる時期に於て嬰兒をして獻兒禮を領せしむるやう、兩親と協定すべきである。

今此科の趣意を一般に徹底せしむるため、配付すべき様式を左に掲げる。

【□】趣意】 嬰兒科新設の趣意

標語 『彼等を抱きて手をその上に按きこれを祝せり』

歴史 嬰兒科は紀元一千八百七十七年始めて組織せられた、嬰兒科の有無は其日曜學校優劣の標準となる位であつて、最近のインターナショナル、リポートの報ずる處によれば其數五萬以上に及び百萬以上の生徒を有するといふ。

生徒 日曜學校の幼稚科編入以前即ち滿三歳の嬰兒を以て生徒とし、入會すべき生徒の名は兩親兄弟知己より科長まで報知する事。

教師 嬰兒科の價值を解し其組織の可能を認めたる科長一名、書記一名尙ほ生徒五十名以上を有する時は各區訪問委員を置く事。

設備 嬰兒科の主意を説明し嬰兒の入會を望む手紙、正確なる通知を書き入るべき入校票、嬰兒の姓名、誕生日、入會時の年齢兩親の名等をしるし、牧師、日曜學校長、嬰兒科長の捺印ある在籍證書を家庭に送る。

嬰兒科全生徒の名をしるしたる軸を教室に懸け置く事。

別に一軸を設けて天國に召されたる子供の名をしるす事。

科長は訪問、通信をなし好機會を利用して生徒や兩親を招待する事。



正確なる記録を作る事。

子供の誕生日には必ず祝状を出す事。

吉凶に際して最も好き同情者となる事。

一ヶ年の報告を教會にする事。

等によりて此科の發展をはかる。新入生のある事は子供の喜びにて新しき生徒の名は組全體にて幾度も繰返さしめ又簡單なる歡迎の言葉に續いて嬰兒科の歌及び祈をも繰返さしむ。通信は凡て子供の宛名にてなす事。

祝祭日 花の日、クリスマス、イースター、母の日及び進級式を祝ふ。

母の會は三ヶ月に一度教會に開き軸に記名されたる子供の母親は凡て出席するものこす。

進級 嬰兒科より幼稚科への進級は満三歳の誕生日を迎へたる時に行ひ、別に一年に一

度日を定めて其年中に進級したる生徒の爲に式を行ふ。

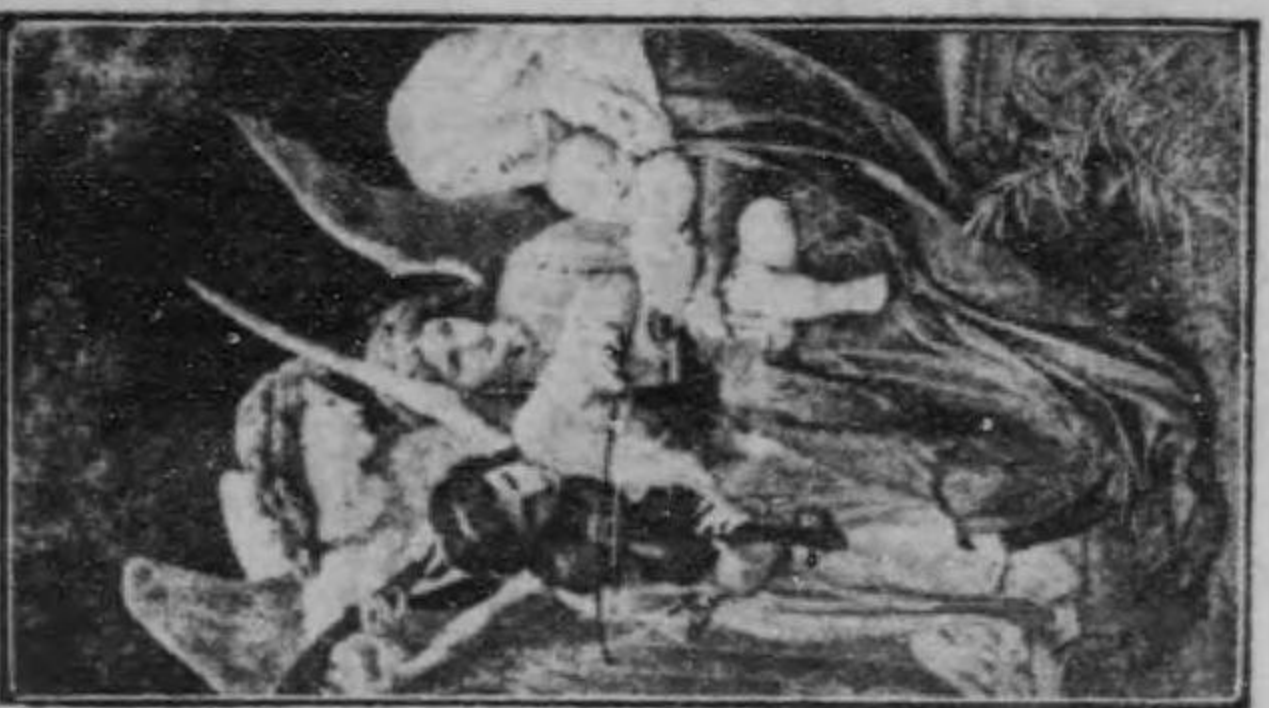
幼稚科にうつりたる生徒は軸の名前の肩に星を符して進級を現す。リボンにて結び愛らしき花をかざりたる進級證書を受け取る時子供を講壇の上に立たしむる事。

此時幼稚科教師は出席して科長より進級生を受取るこす。

結果 よい家庭に教會を一致させ、兒童の良き習慣に宗教心を養ひ、両親に責任を感ぜしめ家族を教會に近づけ、子供に自分は教會の一員であり主のものたる事を自覺せしめ、早くより日曜學校生徒となる事は瞭かである。今や嬰兒科はいづれの地に於ても奨勵されてゐる。

〔ハ〕手續 新たに嬰兒科を開設するため、左の如き手續様式を用ふる。





嬰 兒 科

日曜學校にはあまり小さくて毎日曜日に日曜學校に出られない赤ちゃんの爲めに嬰兒科があります斯うして日曜學校に出席出来ぬ赤ちゃんも同様に生徒の一人である事を御知らせしたら御座います。

貴家の赤ちゃんも何卒御入學下さいまして時々御連れ下さいませんか、私等は其方のためにたえず祈り又御誕生日を記憶して御祝ひ申し上げます。

何卒此裏側に書き入れをして御返し下さいませ、引替に證明書をさし上げます。

嬰兒科長

( 画 ) ( 封 )

姓	名	誕生	日	年	月	日	兩親所屬教會	兩親名	住	所	年	月	日

嬰兒科申込書 (満三歳以下の嬰兒の爲)

( 封 ) ( 画 )



證 明 書

様我〇〇教會日曜學校  
の嬰兒科に入学したる事を證明す

年 月 日

嬰兒科長

校 長

收 師



在籍證明の  
ため、各嬰兒  
に送るべき證  
明書

二、幼稚科管理法

(一) 組 織

未だ學齡に達せざる兒女即ち滿六歳に達する迄の小さき兒女等の集團を幼稚組と稱ふべく之等を生徒として、之が宗教々育に必要な各種の特別なる準備を爲せるものを幼稚科といふ。斯かる名稱が既に其管理上特別なる注意を要すべき事を諳示してゐる。

教會に於て幼稚園を開設したる場合、其日曜日に於ける幼稚科は極めて秩序立てる教育を施し得るであらう。此時代の兒童は未だ小學校に通學せざるが爲に自ら不満を感じ居る者もある。幼稚園は斯かる兒女等の要求を滿す唯一の機關であつて、是非教會の教育上の基礎として幼稚園事業を推奨せねばならぬ。其實現を見れば幼稚科の問題は大部分根底に於て解決



せられ得るであらう。

幼稚科の教師は特に兒女を愛好する心情の篤い人でなければならぬ。生徒が能く愛慕して之に愛着する様に自然の人格的引着力を有する人、而も管理上の技倆を要する事此科の如きはない。愛慕せしめて而も愛に狎れず能く管理を爲し得る教師は理想的である。

生徒の性質上教師は口を動かさばかりでなくまた能く其身を動かし得る人でなければならぬ。此點に於て最も適せるものは女教師である。此時代の兒童は婦人の手によつて取扱はるゝ事が最も適當であつて、管理上能く周到なる注意の行届く事も亦婦人は男子に優るであらう。

其科の生徒が極めて少数であれば主任者一人を以て事足るであらうけれど、尙ほ助手又は樂手が與へらるれば更に好都合である。屢々主任者が繪を描く間に、又は樂器に坐る間に、

既に生徒は寸秒の餘裕を得て、管理上の支障を惹起する原因となる事もある。主任は式を司りプログラムを管掌し、些の弛みなく緊張せる、而も自由ある空氣の裡に其科を指導すべく、助手は常に身を以て生徒に範を示し、圓座に連なり、歌を助け、生徒の世話を努むべく、若し生徒數の多き場合には教話の間之を分級して、各其の一級を擔當すべきである。

幼稚科を他科と區別して、之を一科となし獨立に開校式を行ひ、閉校する事は、最早何人も疑はぬ必然の要求である。何となれば生徒の永續し難き注意力と僅少の知識とを顧慮して、其活動性を發揮せしめつゝ、而も賢明なる指導を與ふる爲には、他科と關聯して之を爲す事は絶対に不可能なるが故である。而して其開閉校式の如きも極めて自由にして而も短かく且變化に富む事を要し、又特に種々なる補助機關の運用を有効と認めらる。



幼稚科は成し得る限り他科と異なる一室を備へられなければならぬ。之れ管理上他と互に妨害せぬ爲に必要なのである。何となれば本科に於ては時々歌を用ひ、又動作を應用するを要し、之が爲に他科に妨害となる事もあり、且本科の爲めには隔離さるゝ事が便益多きが故である。

教室の設備は能く児童の美はしき性情に感應し得べき環境をつくるこいふ主意を以て整へねばならぬ。此時代の児童が特に感覺の世界に住む者であるこいふ眞理は、其教室を一瞥しても明瞭であるやう種々此點に就て注意を要する。理想的の教室としては日光が能く射入し、空氣の流通もよく、清楚たる裝飾が施され、壁には宗教的の名畫、又は美はしき自然を表はす繪畫、棚には盆栽或は小鳥の籠などが靜置され、且之等が時々變換されて、常に新らしく而も清き感化を與へ得るやうの施設がなければならぬ。

他科に於ても同様であるが、日曜學校の靈育には人格的接觸を密接ならしむるため、教室に於て生徒が圓座をつくり得るやうにせらるゝ事は、古き習慣でもあるが又理のある事である。疊を敷ける日本室は塵埃を生じ易く衛生上不得策であるが、其場合に於ては特に清潔を旨として教室はよく清掃されなければならぬ。板間の洋室は此點に於て望ましい。其場合兒女の足がぶらつかぬやうに、特に製造されたる小さき低き椅子を備ふる事が出来れば上乘である。

此教室の中に黑板、玩具、模型等を陳列し得る棚を設くる事も亦望まねばならぬ。尙掛圖を掛け得る用意がなければならぬ。斯くて一度室に入る時に、直に無言の裡に一種の清き感應のあり得る程に、強い印象を與ふるものがありたいものである。之等は教師の側に於ける注意を以て、縦令不充分ながらも或程度迄は、如何なる學校に於ても爲し得べき處のも



のである。

(三) 順 序

幼稚科の式は自由を主眼とすれども、尙ほ最良の結果を望まばプログラムにより規定されねばならぬ。されど之は極めて自然に逐次移り行き、生徒をして少しも意識せしめずに進行するやうでなければ、稍々滯滞の嫌が生ずる。熟練せる教師は之に依つて掣肘さるゝことなく、却つて便益を得て、臨機應變よく其時間の配當に妙を得るであらう、他科と一般的に禮拜式次に就て考ふる事以上に、特に幼稚科に於ては、幼児に適する方法を考究せねばならぬ。最も短かき時間内に於て大なる目的を達せんが爲め、如何に有益に之を使用すべきかは更に常に研究すべき事である、今プログラムの要領を示すならば

一、奏樂及び挨拶(五分)

二、祈禱、献金、誕生祝(十分)

三、問 答(十五分)

四、休憩時間(五分)

五、教 話(十五分)

六、出席調査其他(五分)

七、閉校式の歌(五分)以上一時間

【奏樂及び挨拶】 兒女の情感を導き、崇高なる感化に觸れしむべき雰圍氣は成功の第一義である。そして秩序と静肅と崇敬の念を馴致するもの奏樂に若くはない。幼児等が楓のやうな掌を合せて祈の用意をする時に、實に得もいはれぬ靈氣が満ちてくるのを覺ゆる。若し睡眠を催すやうな日には特に快活なる曲を用ふべきである。



歌又は握手等によつて挨拶をなさしむるは、よく相互の交情を和らげ且増進せしめ、彼等をして此學校の生徒たる意識を自然に養はしむるに益がある。

【祈禱】 感謝讚美祈願等凡て單に興味ある事に就て神に話すべき衝動のある毎に、祈禱は極めて自然に神に捧げらるべきである。譬へばミレーのアンゲラスの畫を示し其敬虔なる態度を見せ、彼等が祈禱し居ることを告げ、さて「私達も今神様に御話致しませう」にて祈るが如きである。

【献金】 も亦極めて單純なる式せらるべく、献金の歌の間になさるべきである。唯生徒が之は「神様の哀れな子達を助くるため」なることを會得するやう、一言の感謝或は告知を以てする事を必要とする。

【誕生祝】 美はしいリボンを結んだ椅子なごにより其日及其週間誕生の生徒を坐らせて、其

子の爲めに祝福を祈り、或は誕生の歌の一節にても歌はしむる事は、如何に小さき魂に清き感化を與ふる事であらうか。

【休憩】 ミいふのは特に幼稚科に於て必要とするプログラムの一である。活動に滿てる者に此時間を以て其元氣を放散せしむる安全瓣なるものである。

(四) 補助機關

幼稚科に於ては特に其教育を有効ならしむる爲めに種々補助機關を使用すべき必要がある。今其二三に就て述べやう。

【圖畫】 特に學課の説明をなすべき掛圖の如き、能く兒女等の玉の如き心に適せる優美なるものを選ぶべく、また鳥、獸、花、子供等の畫を切り抜いて置いて之を使用しても宜い。

【實物】 特に此時代の兒女は感覺の世界に棲む者なるが故に、教師にして眞に有力なる教育



を望むならば、必ず實物の用意を忘れてはならない。

【黑板】 教師が畫に巧みでないといふ事は、以て黑板を使用しない理由にはならない。如何に下手な畫であつても、屢々抽象的の説明に優つて活々した印象を與ふる。生徒の前では畫の巧拙は第二として迅速を第一とする。黑板は又能く生徒に用ひしめなければならぬ。

【動作】 思想發表の爲め唯言語の力にのみ由らずして、手眞似足眞似を以て補ふ事は、特に此課に於て必要とする。之れまた印象を活々とする所以である。

【音樂】 音樂及び唱歌は兒童教育の中心であることへ稱へられる。此時代に於て殊に其然る所を見るのである。唯歌詞の理解し易くして高尚なるものを選び、且曲譜の單純にして能く兒女の趣好に適するものを用ゐなければならぬ。

### 三、初等科 管理 法

#### (一) 初等科生の特長

兒童が學齡に達するに及んで其生活上彼等は新らしき經驗の世界に運ばれる。從來幼稚科に通ふた兒童は同情と指導とを受けて粗野なる環境より救はれてゐたが、而も尙ほ彼等は今や種々なる氣質の兒童の間に投げ込まれて、從來よりも更に感化を與ふる事も受くる事も強大なる經驗を得るものである。前の軟かな幼兒仲間の交りは止んで多くの刺戟が與へられ、彼等は新たに子供らしき興味と混雜とを経験する。

此時代の兒童は斯くて其腦の急速なる發達を見、従つて印象を受け易く、身體最も能く活動し、其世界は漸次擴大せられてくる。されば身體の活動と知識の進歩とを賢明に指導するのが此科に於ける教授上管理上の要件である。彼等の新世界に於ては稍々社交的友愛の心が萌芽を出してくる。而もそはまだ甚だ原始的であつて、蠻族の結藩せる如き様式に表現し來る。



之は家庭時代を過ぎて、學校生活に入るに及び、共同生活によつて開發さるゝ處多きものである。

彼等は習慣形成期に置かれる。所謂「躰」則ち訓育は此時代に於て最も能く其目的を達成し得るであらう、新らしき世界に出で、彼等は知能の啓發さるゝと同時に種々なる新らしき事物に接觸して、新らしき動機を欲求を生じ來る。そして其興味を善用して指導すれば彼等は自然慈愛に伴ふ權威を認めて、之に服従すべき義務責任の感を抱懐し來るが故に、自ら模倣を事とするに至るべく、未だ理性の力薄弱なる丈け、夫れ丈け、模倣によつて習慣を形成するに至るものである。

### (二) 初等科の編制

斯かる特長を有する初等科生は、之を三學年に分ち、尋常小學第一學年より第三學年まで、

則ち滿六、七歳より以上八、九歳までの児童を含む、彼等は幼稚科時代と異なり稍々知的の教育をなし得べき便宜はあれど、而も尙ほ中等科生の如く、能く讀み且書く事を爲し得べきものは異なるが爲めに、特殊の取扱と管理を要する。成し得れば他科と別に開閉校式を行ひ、プログラムを進め得るやう組織したいものである。

此科の教職員は先づ少くも幹事と樂手と各級擔任の教師とを要する。科長は他科と異なる所以を了解し、其管理上の全責任を負ふべく、開閉校式は勿論彼の指導すべきものである。而して幹事は成し得る限り此科をして理想的施設たらしむる爲に、事務一切に對し責を負ふべく、其學籍簿、出席簿、會計簿より諸報告の事務を處理し、且此科専用の圖書の整理に努むべきである。

### (三) 初等科の設備



初等科を一科として別に開校し得るやうに、他科を分離されたる教室を有する事は理想的である。注意作用の未だ充分に發達せぬ此時代の兒童を收容して、教育の目的を達せんが爲には、特に之に適應せる設備を施して管理上の便宜を得なければならぬ。空氣の流通極めて宜しく光線よく直射する教室にして、側壁も模様ある適宜の色彩を以て貼り、教室が直に兒童の趣好に適ふ美はしき環境たり得べき事は最も望ましき處、其理想に達し得ずするも尙ほ成し得る限り斯かる施設を得んことを心懸や努力を要する。又管理上種々なる施設を有する事は甚だ便宜多き所以であつて補助材料として、樂器、實物模型、繪畫、地圖、黑板等の類あるを要するは何れの科に於ても亦同様である。

(四) 執行順序

他科に於けると同様なれど、管理上執行順序に重きを置くべきはいふ迄もない。普通用ひ

らるべき時間は一時間と定められてゐる。或特殊の場合には尙ほ十五分を費やし得るであらう。けれども標準の時限としては一時間とせねばならぬ。此一時間を教育上如何に有効に用ふべきかは管理上の要件であつて、執行順序は極めて價值ある研究問題である、今之を大略左の如く區分する事を得る。

- 一、開校式禮拜(十五分)
- 二、挨拶及び紹介(五分)
- 三、訓育及び訓練(三十分)
- 四、事務及び閉校式(十分)

此順序を濫滞なく進行せしめんが爲には、科長は充分他教職員との協同をなし、其後援を得なければならぬ。而して初等科に於ける開校式は最も敬虔の念を涵養すべき絶好の機會と



して之を用ふべく、之は校長又は科長の全力を傾注すべき場合である。其一秒時たりとも弛緩を許されない。次に新入者又は復校者或は參觀人に對する挨拶又は紹介は、全科生徒に基督教的社交の觀念を漲らしむべき一方法たるべく、各級の教育及び訓練の間は無論擔任教師の手腕を力量に俟つべきであるが、而も尙ほ校長は能く其統一指導の心懸を要する。訓練は特に習慣形成の爲めに指向けらるべく、服従、勤勉、卒直、剛毅等の諸徳を實際應用の問題に於て訓練するの方針を取るべきである。終りの十分間に於て報告、告示其他の事務を、閉校の式を司るのである。斯くて一時間を終りし時に科長始め教職員一同の心裡には、清き感謝が溢れ來らねばならぬ。

(五) 各級の管理

初等科の教師は管理上最も困難なる地位に置かれて居る事を自覺せねばならない。先づ第

一に彼等は進撃的精神に満ちてゐる。故に教授時間中も互に争ふ者や、前後左右を顧みる者なき、殆んど落着きのない有様を見るであらう。之等の傾向は必ずしも悲むべき憂ふべき事ではない。そは奉仕と愛との衝動と同様に貴重なるものである。八九歳の兒童が男女共に斯く聲高に話したり、押したり、引いたり、或は低聲に囁やいたり罵つたりするのは、決して珍らしい事ではない。之れ特に管理上の技倆を要する所以である。其管理宜しきを得れば蠻的の争闘心も聽ては將來世に立つて剛毅英邁の氣質を發揮すべき所以なる。又遊戯は初等科生に取つて極めて大切な一課程である。實際彼等の爲す總ての事は遊戯である。而も彼等の遊戯は稍々粗暴の傾向を生じてくる。幼稚科時代に於ては其小さき仲間或は優しい教師を遊ぶ心持であつたが、今や初等科に於ては自己の進撃的精神の爲に、自身の満足を買はんが爲に、凡てを遊戯化せんとするのである。教師は全級の管理上能く之等の本能的傾向を察し



て、適當に指導すべき責任がある。然らざれば屢々身體は級に置くことも心に於ては缺席せる生徒あるが爲に、到底其教育の目的を達成する事が出来ない。

#### 四、中等科管理法

##### (一) 中等科の組織

中等科は尋常四年より六年、即ち滿十歳より十二歳位迄の生徒を收容する一科であつて、日曜學校に於ける少年科としては其中心となるべき大切なる一科である、此時代の兒童の宗教教育が最も重大なる所以は、即ち其終り頃より次の高等科に至り、所謂青年初期に入るに及んで、愈々自覺ある宗教生活に入るべきものであるから、此科に於ては之を豫想して堅實なる基礎を造らねばならない。

##### (二) 中等科生の特長

此時代の生徒は特に事實に對して興味を感じる、所謂リアリスチックの者であるから、何事も眞實なる見識確實なる計畫を以て指導されねばならぬ。故に地理歴史等に關しても、幼稚科と異なる見地に於て、實物を準備し、配列し、之を提示すべき用意が必要である。宗教博物館の計畫（小規模にても）又は材料の蒐集等に協力せしむれば、多大の興味を惹起し得るであらう。

##### (三) 中等科の施設

記憶力の旺盛なるを善用する方法としては、金言又は其他の有名なる聖句等を、此時代に諳誦せしむるため、美はしく記したる掛圖の如きを調製するをがよい（或は特殊の印刷物を用ふる）。此時代の歴史地理的興味に應ずる爲めに、地圖や歴史的事物の備付を心懸けねばな



らぬ。又教師は單に教室に於てのみならず、共に旅行するか或は共に博物館を訪ふか、校外に於ける彼等の生活の管理に注意すべきである。之れらは此時代に悪化されんことを惡友の感化を防ぐ所以ともなるであらう。

傳記的物語や讀物に對する興味を管理上に善用して、兒童圖書館の設置或は其管理に對し協力せしむる事。又時には其讀み且知り得たる書を發表せしむるため、學藝會の開設等を圖り、彼等をして其プログラムを自治的に作成し且實行せしむる等は訓練上望ましい事である。

此科に於ても亦科長は特に日曜一時間のみ管理以上に、何等か生徒の訓練上常に考慮を費やし、或は中等科の少年少女共勵會を設置して其自治的訓練を圖り、或は各級正副委員會を善用して種々なる機會に種々なる施設をなすべきである。又彼等の間より一の聖歌隊を組織せしめ、音樂に關する教育と共に、日曜學校禮拜に貢獻せしむる事も一舉兩得である。

#### (四) 中等科の困難

此科の教育を從來困難ならしむる一の事實は、中等學校入學準備をなすに至る事である。今日の如く入學試験の爲に親も子も悩まされつゝある學制の下に於ては、已を得ぬ事であらうが、中等科三年に於ては殆んど特殊の家庭のほか、日曜學校を休學して日曜日にまで豫習に没頭せしむる事が多い。之は實に慘酷なる取扱であつて、早晚何等かの緩和策も講ぜらるゝであらう。又講じつゝある傾向をも認むるのであるが、現在に於ては此科の二、三年生に對しては受持教師が、同時に其豫習に關しても便宜を與へてやる程の親切を以て此困難を補ふ必要がある。

尙此科の生徒が、殊に男生に至つては、所謂腕白盛りであるが爲に、教室の内外に於て管理上充分の賢明な指導を要する。併し之は單に窮屈に掣肘をのみ企つる事ではない。其自由



の活力を發揮せしむるに同時に、秩序を維持し、法則を嚴守すべき觀念を養ふ事である。

### 五、高等科管理法

日曜學校は其軟芽の如き少年科に於て繁榮し、その花の如き青年期に於て萎み、實の如き大人科に於て消滅するに現狀である。之は教會の教育に於て未だ充分青年期の研究を積まず、其要求を満たす能はず、彼等を引付ける權威を有せず、彼等に興味を感じしむる事が可能ない爲めであるに思へば實に赧顏の至りである。

現代青年の多くは教會を遠ざかつて居る。彼等の能力は教會外の他の事の爲に用ひられてゐる。彼等の足は常に他の機關に向ふてゐる。之には種々なる原因もあらう。

#### (一) 青年教育の困難

先づ彼等青年者の思潮の傾向である。近代の如く人間が利己的の我儘に陥つた時はない。若し青年子女の爲めに何等か直接利益となるべき事を行へば彼等は其時丈け教會に近づく。或は男子の親睦遊戯、或は女子の刺烹其他の稽古事等には出席するが、日曜學校の教育の爲めには集まらない。これ一には彼等が自利に急なるに、又何事も組織的の事に着實なるべき訓練を缺けるが爲めである。

次には其家庭の父母が長き間方針を誤つた結果を數へねばならぬ。彼等は目前の學科事業や家事に専心にして、其子女をさへ利用し得べき限り之を利用し、爲めに其修養研究の後援をなさぬのみか、却て之を家庭の側より妨害してゐる。植物や動物を育つるよりも人の子を教養する事が百年の大計である事を忘れ、聊かも青年子女の宗教々育に同情し興味を感じぬ頑冥の故老が、此靈的事業を阻害してゐるのである。



第三には教會の施設が彼等青年者の心理的要求に應じ兼ねて居る事である。世の各般の施設は日進月歩の時運に伴ひ、能くの深き要求に應ずるものがある。併し獨り教會の施設のみに百年一日の如く大なる變化がない。古き革囊に新しき酒を盛らんとしてゐるのである。之は所謂高等批評や新神學や音樂の發達や其他の新しい方法に由りて補ひ得べき缺陷ではない。彼等の個性と獨立心と熱誠と價值判斷とに訴ふると共に、其社會的性情を満足せしむる所以のものがなければならぬ。之が爲に教會は、彼等に奉仕の機會を與へ、其價值を自覺せしめ、其責任の感を強むべき方針に出でなければならぬ。

(二) 青年の覺醒と活力

青年期は其の精神的覺醒の時期である。第一時代に社會的覺醒を見るであらう。極めて卑近な事實より言へば青年等は始めて扮裝に注意を拂ひ始めて來る。從來の弊衣破帽を美し

くし、其頭や足先を光らしめ、今は鏡の前に十分間を費やし、男女共に衣裳や身廻りの物凡て斬新なるを好むに至る。之れ將に青年危機の到來せるを示すものであつて、必然彼等が社會的生活に入れる事を自識せる所以である。

第二に道徳的覺醒の時である。青年は始めて其言行や態度に注意を拂ひ、今迄何心なく行ひ來りし事々を、今は思ひ出づるだに赧顏の感あらしむるに至る。之は社會的覺醒と大に關聯して、他人を尊重すると共に、正しき事の爲に正しきを爲す快感を以て行はれる。そして之は

第三に宗教的覺醒と相結べるものたるを示す。青年期は宗教的情操の最も高く發動し、最も深く其靈精を動かす時代である。回心の率は青春期の直ぐ前に稍々高く次に稍々低下し、更に急轉して青春期の年齢に於て最高率を示すに至る。



回心の黄金時代は満十四歳より十九歳の間であると言はれる。多くの統計に依れば満十六歳はその最高潮を示す時である。此時代に教會を遠ざかつて居る事は大なる損失である。精神上斯くも美はしき覺醒の時期を捕へて、之が宗教道德上の訓練をなす爲に、其社會的要求を満たし神との靈交、人との社交に對し、適當なる指導を與ふる事が青年科の根本的要件である。

之等の精神的覺醒の背後には青年心理の特長が潜んで居る。其一は驚くべき肉體的活力の發揮である。青年の活動は此活力の表現に外ならぬ。激烈なる剛勇の遊戯が推奨されるのは夫が爲である。其二是異常なる知的活力の發動である。青年が世に爲し得た總ての事は此特長を表してゐる。彼等は新に其時代の問題に對して大なる興味を覺え、熱心な批評を以て萬事に當る。知的の論争は彼等の大に好む處である。其三是著しき情緒の發現である、今更の

如く時日を空費せるを感じて其一秒時も眞實なる實生活に適用せんに至る。(併し之は自己に醒めた青年の事であつて、其或者は徒らに何の思慮もなく時日を空費する事も多い)其四是特別に意志の活力を表現し來る事である。彼等は自己の計畫を其實施方針を容易に動かし得ないものである。極端なる自信を以て他の容喙を許さぬ。

(三) 青年危機の救濟

青年科の教師は能く青年の心理を解して、彼等が逢着せる危難を救ふ細密の注意を要する教授法管理法よりも更に切要なるは教師の指導上の能力である。彼等青年は屢々懷疑に陥る程に正直である。そして秘密を神聖と思ふて自己の疑惑を容易に打明けぬ傾きがある。斯くて獨り煩悶の日夜を送るに至る。其見る處は常に一方面である。故に他方面の關係を解し得ずして一圖に嚮ふ所に向ふて馳せる。爲めに或者は天地人生の問題を考へて、遂に自殺を最



良の方法とする結論に達した。或者は此世の一切の虚偽より離れんとしてトラピスト入院を望んだ、或者は父母の干渉を免れて自由の天地に棲まんじ逃亡を企てた。而も之等は皆青年心理上の一傾向である。之を解せぬ教師や父兄は遂に其の子女を誤る事が多い。日曜學校に於ける青年科教師は眞に彼等の信任を受くる指導者でなければならぬ。

されど人生の春は其生命の危機である。青春の血湧きかへる時に、靈的生命の危機は到來してゐる。そは人生歡樂の具として散るか、或は人格の果を結ぶに至るか、今其分岐點に立てる者である。宗教心の最も能く發揮せらるゝ此時代に於て、之が誤りなき指導をなすは當に教會の重大責任である、「鐵は熱せる間に打て」といふ。青年期の宗教々育は教會事業中最も緊要なるものゝ一つである。

(四) 青年の指導者

青年は教會生活に於ける花である。一國の元氣たる彼等が教會に在るは教會の元氣を旺盛ならしむる所以である。彼等が經濟上の資力を以て教會に貢献し能はざるが爲に、之を輕んずるか、然らざるも之を重要視せざる教會の元老があるならば、そは思はざるの甚だしき淺見である。教會は親心を以て其青年子女の指導教養に努めねばならない。そして彼等の精神生活を管理すべき責任は、教會の當然負へる重大な責である。

由來青年等が教會を遠ざかり、教會の子女等が巢立ちして往く所以のものは、教會の親達が無冥不移にして舊時代の教理傳説なき舊套を之に被せ、習慣もか流儀もかいふ家風の如き型を以て、之を律せんじするからであるといはれる。子女等は新進の學問をしてゐる。獨り教會の親達が舊思想で壓迫するこいふのであつては、所詮新進の子がゐたゝまらない筈である。將來の教會が存在の意義を確保すべき種々なる要件もあるが、先づ宗教々育は確に其一



要素である。殊に青年期に於て之をふ喪愚を演ぜぬやう、此貴重なる時代の指導に細心の注意を拂はなければならぬ。青年の指導者はよく之に熟練するを要する。彼等の感情の波は常に高いのである。其中に在つて過ちなき指導をなす靈海の船長は、其信念に於ても技倆に於ても、卓越せる者たるを要する。指導者其人が其教育上の目的を完成する一大要素である。

(五) 青年の訓練

前述の如く先づ教會に於ては青年といふ一階級を重要視せねばならぬ、之を等閑にし或は輕侮して教育が可能る筈はない。次には適當に彼等を活動せしめねばならない。教育の大部分は訓練に俟つべきである。

日曜學校は特に此時代に於て彼等自身の自治的訓練をなし得べき機關を備へなければならぬ。即ち各校には必ず共勵會を組織せしめて、彼等の興味をつなぎ、其活動に便せしむる事

が最も機宜の處置である。故に管理上高等科には共勵會を附設するを要する。そして常に彼等に何事をか爲さしむべき計畫を立てねばならぬ。同時に注意すべきは餘りに之を用ひ過ぐる事も亦、一弊害を伴ふ事である。田舎の教會なきに於て屢々之を利用し過ぐる爲に、遂に彼等の自負心を募らしめ、己が分を忘れて甚だしき輕卒なる舉動に出づるやうな性格を作らしむる危険もある。

且教會出席の青年等が學業成績の低下を示さぬやう獎勵を要する。日曜學校に於ては又少年少女別に彼等の地位を認めてやらねばならぬ。彼等は常に子供扱にされる事を不慍とする。回心期に教會を離るゝ理由の一は確に爰に在る。故に高等科(青年科)は特に開校式又は閉校式に於て、特殊の集會を催し彼等のみの禮拜を行ふ事を要する。そして高等科禮拜を一小教會の禮拜の如くにして、訓練を與ふる事は極めて望ましい事である。



教會の役員たる訓練の如くに、彼等のうち或者をして日曜學校の事務に當らしむるか、或は各級の助教たらしむるは最も有効である。蓋し教へしむるは大なる教育である。

(六) 青年本位の施設

將來の教會は單に修道院的に靈魂の遁れの邑であつてはならぬ。そは宗教々育に社會事業を營む靈界の中樞でなければならぬ、此立論よりして青年の爲の施設を考へたい。青年の宗教々育が日曜朝の一時を以て能事終れりといふ事は可能ない。須らく青年を教會所屬の寄宿舎に收容して日夜の宗教生活によれる訓育を施すべきである。又相應に教會の子女としての彼等に社交及び修養上の要求を満たさしめねばならぬ。婦人等は殊に家庭を離れ居る青年子女の爲に、親子なり兄弟となりて、同情を濺がなければならぬ。婦人會は時々彼等を招致して其會食を楽しみ、又は彼等の衣服の世話をも引受くる様に注意を拂ふべきである。

更に教會内の有志は獎學の方法を講じて、彼等のうち成績優良なる學生等を補助し、眞に育英の爲に資金を献ぐる覺悟あるを要する。又實業方面の實務に當りつゝある青年に對しては、或は其知的開發の爲の施設をなし、或は其慰安の爲の方法を講ずべきである。斯くして青年の宗教々育は、形式的教理の復誦に止まらず、生ける宗教的生命を培養する所以なるであらう。

六、師範科管理法

(教育養成の施設)

(一) 教師の理想

兒童の宗教々育に當るべき教師は眞に光榮ある使命を帯べる事を知らねばならぬ。神より受くる見えざる報賞のほか何等の酬なく、神より直接の召命を受くる外何人よりも頼まれず



に、自ら進んで此事業に携はる者多きは感謝すべき所、而も宗教々育の事は單なる熱心によつてはできない。又單なる知識も不充分であり、單に興味を有するといふ事であつても未だ理想的の教師ではない。教師たらんが爲めに知識と經驗と熱心と興味とを皆兼ね備へなければならぬ。理想をいへば、教師數は恐らく約十倍を要するであらう。若しかく多數の教師が此事業に努力するに至らば、其結果は如何に顯著なるものがあらうか。余は近き將來に於て斯かる現象の實現を祈らざるを得ない。

教育の事は永久性を有してゐる、教師は單に大會的熱心を以ては可能ない。之が爲めには永き間の堅實なる研究と努力とを豫期せねばならぬ。教師たる者が依然として傳統的方法を以て不充分なる訓育をなすに満足し居る限りに於て、日曜學校の事業は其本來の大使命を盡し其兒童教養上に於ける能率を發揮する事は可能ないであらう。

(二) 教師の候補者

全教會員は神國實現の爲め、兒童の教育に關する種々なる問題を研究すべきはいふ迄もない。併し總てが其時間と能力を有する事は望まれない。故に特に適當なる人々を選んで其の候補者となす事は、教役者及び教會幹部の責任である。素よりレディ、メイドの教師もあらう。併し將來の教授力及び教師たるべき者は現在の日曜學校の中に在る事を解すべきである。其候補者として公立學校の教師は、既に教育に關する知識と經驗とを有して、最も簡便に日曜學校の教師たるべき資格を備へ得るであらう。次には比較的時間を正確に用ひ得べき便宜を有する點より官吏が此方面に盡力し得るであらう。そして十八九歳以上の男女學生は現在に於て最も有力なる教師の候補者である。他に多くの缺けたる點はあるにしても、世の辛酸を嘗めて其性格の種々なる習癖を付けた人々よりも、自然に仲々宗教性の開發せられたる青



年學生等は、寧ろ善美なる感化を及ぼし得る特長がある。

以上述ぶる處は教師たるべき候補者を一組となして師範科を新設すべき暗示である。

(三) 師範科の施設

【イ】教師の参考圖書】 教師は参考書を讀まねばならぬ。マツキーパー氏は良教師たる最上の證據を良圖書の増加に由て知るべしといふた。而も其圖書は平衡の取れた圖書でなければならぬ。

- 一、改譯聖書の數種
- 二、聖書辭典及び註釋書
- 三、兒童研究に關する良著書
- 四、日曜學校組織制度、教授法、管理法に關する書物

【ロ】師範科の設備】

- 五、其各科に關する良參考書
- 六、一般的教養の爲の圖書
- 一、正確なる地圖の數種
- 二、黑板其他の教具
- 三、聖書辭典及び註釋
- 四、少くも十五冊以上の參考圖書
- 五、全く他と區別を有する良教室

(四) 師範科の課程

師範科の教育は三方面である。則ち知識と視察と實習とである。此科の教育を先づ二ヶ年



の課程をなし、種々なる支障を控除して八十時間の教育をなすにせば

知的教育 四十五時間

見學視察 十五時間

實際教授 二十時間

をなす事が出来やう。そして知的教育としては

(イ) 聖書的研究(總論、註釋及び教會史)等十二時間

(ロ) 兒童研究(兒童の生理的、心理的發達及び教育學綱要)等、十八時間

(ハ) 日曜學校研究(組織、管理、經營、歴史)等十五時間

尙更に簡便に爲さんすれば、全部を五十時間に短縮して、見學や實習の時間を省く事も出来やう。

而して之等の課程に使用すべき教科書は常に標準的の良著を選択すべきである。

(五) 他の教師養成法

以上は師範科の組織的教育による教師養成であるが、其他に於ても機會を善用して稍々教師の資格を養はしめ、其補充の目的に資する事が可能。

【(一)教師會の善用】 各校に於て開かる、教師會を養成の機會をなし、或は専門的の講話を聴くか或は題目を掲げて討議するか、或は視察見學の報告をなすか、必ず何等かの教養に資すべき機會をなす事。

【(二)巡回講演會】 各地方に巡回教師を派遣して教師養成の爲め講演を爲さしむる事は、新に此事業に對する興味を惹起すと共に、研究の刺戟を與へて必ず有効である。各部會に少くとも年一回の巡回講演を企てたい。



【三】特別講習會】夏期學校又は冬季學校の如く、一般の休日善用して特殊の講習會を催す事は、目下の急に應ずる適切の方法である。此場合に於ける講習課程は次の如き割合を以て計畫さるゝを適當と信ずる。

聖書的教課	五時間
應用兒童心理	五時間
管理法及教授法	六時間
音 樂	四時間

(以上二十時間)

之に懇談會を如へ四日間を開期する位が適當であらう。

(六) 教師の召命

青年諸氏は其優美なる品性を以て宗教々育の大事業に當る特權を自覺せねばならぬ。之は世の何事よりも光榮ある使命である事を知るべきである。其才能力量を神に賜はりし基督教青年は、起つて神に仕ふる爲め、教育の大任に挺身すべきである。

今や世を舉つて靈に飢えてゐる。從來の文化は不健全なる破滅を來した。婦人小兒は酸鼻の世界に投げられて、弱き者は嘲笑の的になつてゐる。現在世の要する者は宗教的慰藉である。其根本たる靈育である、物的文明は壞れたが、人道は搖籃の中より發展せんとしてゐる。靈育の教師は新時代に於ける最大の使命を帯べる者である。そして神に關する知識は人の品格の發展によつて始めて知らるべきを思へば、神の愛子の靈育に召されたる者の光榮果して幾何であらうか。教師の使命に關する自覺は其養成の先決問題である。

七、大人科管理法



(一) 大人科の困難

日曜學校が單に青少年の生徒にのみ限るやうな概念を與へたのは斯界の一大缺陷である。我邦に於ても却つて基督教宣教の初代に於ては、大人が皆日曜學校の生徒である事を意識して居り、何れの教會の規約にも殆んど皆「安息日には日曜學校を開きて聖書を學ぶ」といふ事があるやうであるが、今は安息日の觀念が極めて薄弱になるに同時に之も亦殆んど皆空文になつて、大人は生徒たる自覺を失つてゐる。之は甚だ遺憾な事である。唯現今に於ても其昔の良風を維持して怠らず實施してゐる教會は、僅に大阪市に一箇あるのみであるといふ。

米國に於ては今や大人科聖書研究（アダルト、バイブル、クラス）は盛大を極めてゐる。そして長く聖書を學ばんとする心的態度を有して居る謙讓の信者の多い事は、誠に感服の至である。未熟にして早くも卒業信者となるが故に、基督教會に名のみ存する信者を殘すに至

るのであつて、我邦教會に於ては今や特に大人科の獎勵を要する切なるものがある。

(二) 大人科の組織

我邦に於ける從來の經驗に徴するに、國民が何事も永續し難き傾向あるが爲め、定期の集會となれば漸次衰滅に歸する事が多い。故に最も事情に適して居ると思はるゝものは左の如き組織計畫をなす事である。

- 一、男女數學級に別ち夫々擔任教師を定むる事
- 二、先づ十數回を一學期として其期間の研究豫定を作成する事（期限のなきは永續せぬ妙な心理状態が經驗せられる）
- 三、開校時間は日曜朝青少年部を以て教會を充さるゝ事多ければ、寧ろ夕拜時を選んで約三十分の研究をなすべき事



四、特に此科の教務主任を設けて一切の教務を管掌せしむる事

五、閉校式にして其日の課題に基づき牧師の總括的説教(約十五分間)を聴かしむる事  
以上の方針に従ひ著者は會て前任地に於て之を試みて相應効果があつたを認め次第である。當時一般に配付したものであるが、大人科の組織に關しては先づ左の如き趣意書を公けにするを便宜と思はれる。

(三) 開設の趣意書

日曜 大人科開設

(聖書研究会)

◆開設趣意

總ての人は神の言たる聖書を學ぶべきであり、信者は之を組織的に研究す

べきであります。之を等閑にせる國民は頽廢に陥り、之を怠れる信者は不徹底なる信仰生活に終る。此缺陷を補はん爲に聖書を共に學ばんとするのが本科の主意であります。

◆第一學期 四月より六月にかけ十二日曜を以て第一期に致します。

◆研究主題 「イエスの人格」につきマタイ傳中より十二の題目につき學びます。

◆研究方法 日曜夕拜時(午後七時半)に各級に別れて、夫々の組に於て約三十分間、

擔任教師指導の下に研究をなし、終りに全部集合の上約十五分間、牧師又は講師の總括的説教を聴聞する事に致します。

◆擔任講師 各級の擔任講師は左の方々にあります。

男子志道者組 牧師 女子志道者組 牧師

男子信者組 教師 女子信者組 教師



◆研究課題

主題『イエスの人となり』

第一回	四月十三日	耶穌の受難	太二七ノ一―五
第二回	同 廿日	耶穌の復活	太二八ノ一―〇
第三回	同 廿七日	耶穌の法悦	太九ノ一―五
第四回	五月 四日	耶穌の寛容	太一八ノ二―三〇
第五回	同 十一日	耶穌の義憤	太二三ノ三―三八
第六回	同 十八日	耶穌の忠信	太二六ノ三六―四六
第七回	同 廿五日	耶穌の至誠	太六ノ一―六
第八回	六月 一日	耶穌の受洗	太三ノ一―一七
第九回	同 八日	耶穌の試練	太四ノ一―一
第十回	同 十五日	耶穌の見識	太二ノ一―一四
第十一回	同 廿二日	耶穌の愛情	太一八ノ一―一四
第十二回	同 廿九日	耶穌の精神	太一一ノ二五―三〇

◆入會手續

教會員たるに否に係らず、何人でも聖書を組織的に研究したいと望まる方は、御入會を歓迎致します。左の申込書に夫々記入して次の日曜迄に御差出しを願ひます。  
會費不要 但し夕拜献金を致します。

教會 日曜學校

大人科聖書研究會申込票

市

町

信者は所屬教會

(姓名)



右貴會へ入會して聖書の研究を致度入會申込を致します

右

教會日曜學校大人科 御中

(四) 研究の課題

尙研究課題として選ぶべき教材は、聖書のうちに多く見出さるゝであらう。

縦令は「山上の垂訓」を十數回に研究するか、或は「イエスの比喻」に就て研究するか、或は詩篇の各書に就て學ぶか、又は小預言書、或は小書簡等、優に十數回にて一三通り纏まりのつく研究課題があらう。そして經驗に徴するに、いつも十回前後を以て一段落をなす事が最も適當と思はれる。

管理法と教職員

一、校長の職責

【(イ)特權】 日曜學校長たる者は多くの教會に於て認められ居る如く、執事或は長老等と共に其教會の役員として選舉すべき者である。そして其職務執行に就ては全然自由を許さるべく、其同勞者の如きは全く自己の欲する者を選ぶべき權能を附與されねばならぬ。而も彼は教會の役員及日曜學校教師より、成し得べき範圍の後援を與へられるといふ保證を要する。

校長と牧師は全く理解と同情と信任を以て互に協力する様でなければならぬ。若し不幸にして兩者の間に聊かにても軋轢猜疑、若くは不調和等があるならば、それは日曜學校と教會



に取つての一大不幸である。

【(ロ)資格】 校長たる者は能く父兄児童の信任與望を擔ふに足る者であつて、一般より少くとも小學校長以上の人物を認識せらるゝものでなければならぬ。故に社會上の地位も少くとも紳士として世に認められる者たるを要する。

其常識よりいへば、能く機宜に應じた措置を取り得る人であつて、其學識よりいへば、聖書の智識を有するは勿論、日曜學校の目的、理想、現況又は児童心理の一般を解し居る者其趣味よりいへば人間殊に子供に對して興味を有し、之を愛好する者、其技倆よりいへば管理上級の編成に對し、教師の配置に關して一己の識見を具有し、またよく教育豫定を腦中に收め、近くは執行順序と時間の配分を意識し、司式上には謹嚴なる態度ありて子供の禮拜を司り得る者、其品性より云へば親切丁寧公平無私にして確信あるの人、殊に失望せる教師

の獎勵者となり、憐れむべき兒童の友となり、謙遜で、柔和で、天真で、寛大で己が胸中を同勞者に打明け其共働を促し得べき底の人、其熱心よりいへば常に改良進歩に志し、現境に立つて、より善き學校たらしめんとする理想を眼前に掲げ、之が爲には屢々視察と研究に努め、又此事業を以て何事よりも自己の神より授けられたる使命を感じ、絶えず祈を以て神の指導を願ひ、「所謂寢ねて夢み醒めて思ふ」程に、全く此事業に囚はれたる人たらんことを要する。斯かる校長あらば日曜學校事業の發展せざる理由なく、其兒女等に與ふる祝福は如何ばかり大なるものであらうか。されど之は理想である。吾等は理想の結晶した校長を欲し

いと思ふこと切なるものがある。

トラムブル著「模範的校長」は總ての校長の參考すべきものである。



## 二、教師の職務

【(1)序説】 日曜學校の内部的發展を圖らんせば先づ學校の施設に相應せる

(一)教授力の充實を圖る事が必要である。教師其人を得れば方法や手段を第二として、兎に角日曜學校の靈育は可能である。何れの學校に於ても之が最大難事である。併し一般會員の興味を祈すが、此尊き事業に傾けらるゝに至らば必ずやよき解決を見るであらう。

(二)次には管理上の注意が行届かん事である。日曜學校の僅かなる開校時間に何が最も有効なるか之問は、靈的の空氣中に生徒を養ふ事は其主要なる要求であらう。而るに彼等生徒が稍々恐怖を覺ゆる小學校と異なり、寧ろ愛に狎れんとする日曜學校に於ては、此事が最も困難であつて、而も極めて大切である。若し校長其人が興望の中心人物として生徒の前に

立つ時に、直ちに彼等の集會の間に敬虔の念を創造し得べきものならば、それは理想的に行はるゝであらう。併し斯かる事のみは望み難きを以て、各校に於て注意を要することは、教師全部の協力である。何れの日曜學校に於ても教師の多教が遅刻するか、或は出席し居るも開校式は司會者の責にして、我不關焉の態度を取り、或は後方に控え或は教案を繕きつゝあるが如き事ありては、到底管理上の目的を達成する事が可能ぬ。又歌を教ふる教師に對しても全職員が協力して、共に歌ひ共に教ふるのでなければ、徒らに努力多くして徹底する事が可能ぬ。教師は管理上に於ても大なる責任者であつて、唯分級教授間の教師たるのみではない。常に各々其級を管理すべきである。

(三)次に教授上の注意は日曜學校能率増進のために緊要である。之には教師の學課に関する準備、その教案に於ける事業上の秘訣が相伴はねばならぬが、其の詳細の注意は今爰



に述ぶる場合ではない。唯注意を促したいのは

(四)教案の運用である。如何なる學級制日曜學校を教ふる者も何等か教案を參考すべきである。偶發的の自己の感情に依つて、日曜毎に聖書中より選びし教材を用ふるは、常に系統的に一年間の教育を全ふし難きのみならず、常に教師自身の興味を中心として選ぶの弊があつて、教育上面白からぬ事である。勿論其説明の方法や適應の事に就ては、最もよく生徒を知れる教師自身の適當なる運用を要すも、根本に於て組織ある教案に準據する事は甚だ望ましき事である。

【(ロ)使命】 教師は實に日曜學校てふ鳥の翼、魚の鰭である。他の如何なる職務が重要であるにもせよ、教師なくして日曜學校は動くべくもあらぬ。抑も人を教ふるこいふ事は寔に光榮ある職務であるが、殊に神の言葉を人に教ふる程尊い務はない。教師は實に生徒に面接し

て此重大なる職務を實行すべき者である。されば校長も亦一級の教師とせられた時には、寧ろ優遇を受けて榮轉せるものと思ふべきである。之は必ず天に於ける報賞を失はぬ價值ある任務であつて「衆多の人を義に導ける者は星の如くなりて永遠に至らん」(但一二ノ三)之は之れ正に教師に約せられたる光榮の酬である。

斯かる光榮の務に自ら任じて起つ處の人の少なきは甚だ怪訝に堪えない。何れの日曜學校に於ても訟ふる處は良教師の缺乏である。此事業を一部青年の手にのみ委ね置くべきものと思ふのが根本の誤りではあるまいか。若し地位ある紳士も家庭の主婦も自ら進んで之に當るならば決して教師の不足を憂ふべき筈はない。殊に女教員の缺乏を訴ふるもの甚だ多き所以のものは、日曜學校を未婚者のみ參與すべきものと思ふ誤謬か、或は家庭の人となれば到底其餘裕なきものこせる迷信の結果に外ならぬ。此光榮ある使命を感じたる者が一週僅かに一



時間の繰合せを附け得ない理由はない。之を要するに使命の自覺が足りないのではあるまいか。

教師中特殊の技能を要するものは即ち音楽教師である。音楽が日曜學校の重要な部分を占有するにせよ、之が教授に方る者には、少くとも器樂に達せる者、聲樂に堪ふる指導者の二人あるを要する。之は決して得易い者ではない。併しながら今無ければ之を養成する義務めねばならぬ。日曜の時間中廿分乃至卅分を使用する音楽に對して、更に一段の注意を研究を要求するものありといふのが著者の持論であり理想である。

### 三、教職員と教會

日曜學校事業の中樞なるものはいふ迄もなく教職員である。そは戸の蝶番ひであるとい

はれる。そして教師が其使命を充分に果す爲には、直接日曜學校に對して忠實であるばかりでなく、常に其教會の發展を劃策する者でなければならぬ。

#### 一、日曜學校教職員は忠實なる教會員たるを要す。

教職員にして未だ會員になつて居らない者や、或は未だ洗禮を受けて居らない者などは、其資格を缺いて居る事が瞭かである。又會員であつても眞に忠實なる模範を示す者でなければ教會發展上の障礙となるものである。具體的にいへば教職員の多數が日曜學校を教會より獨立したる自由の機關を考へ、其教授を終つて後禮拜出席をすら怠つて歸り往くが如きは、甚だしく教會員及び上級生徒に惡例を示すものであり、又教會に對する献金等も更に無關心で過し居るやうであつては、到底教會の發展を促す事が出来ない。彼は教會の教育に携はれる教職員である。自ら忠實なる信者たらずして如何にして他を忠實なる基督者たらしめ得る



であらうか。自ら精神的に聖化されなければ如何にして他人を靈的に指導する事ができやう自ら神の宮に於ける禮拜を重んずるのでなければ、如何にして他を教會の禮拜に導き得るであらうか。自ら訓練されたる會員としての教會生活を送らなければ、如何にして他を訓練する事ができやうか。

多數の教職員は單に日曜學校の教授時間が過ぐれば其事業が既に終つたもの、如く考ふる誤謬に陥つて居る。斯くて日曜學校の上級生にして漸く信仰生活に入らんとする者の前に惡例を示して、多數生徒は教會との關係を有せず皆離れ去るであらう。從來日曜學校の成果思はしからざる所以も亦爰に在る。

教職員は又自己所屬の教會發展の爲に其牧師の爲に、其役員の爲に、其多くの協力者の爲に、熱誠を以て祈る心の持主でなければならぬ。其教會の爲に祈る程の興味と愛を感じずる

者でなければ、其教會の教育に當る資格はない者である。

二、教職員は聖化されたる社會的情操を有して、他と協力し得る者たるを要す。

教職員は他と親しみ且協働し易い様な社會的性格を發達せしむべきである。非社交的であつて教會の爲めによく奉仕するといふ事はあり得ない。其社會的關係が廣く大きければそれだけ其感化も活動も大きく、教會の發展に資する事となるであらう。

其社會的情操も亦聖化されねばならぬ。教授に當る時のみ潔き言語、美はしき辭令を用いても、平素不用意に人々に接觸する場合に於て教職員が眞に敬虔の態度を有せぬならば、教育の威信を失墜するのみならず、教會其もの、不信を買ふ事となるであらう。そして又教職員は世の人々の要する處に喜んで應ずる用意が肝要である。「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く」心懸けは、嚮て人を導き且教會を發展せしむる所以である。現代は單なる社會事



業のみを以て救はれ得るものではない。教職員として特に其市民の教育的施設や公共の事業に對し興味を有し、且奉仕の機會を見出す様心懸けるならば、それは教會の延長となるであらう。

三、教職員は敬虔の至情に生きて、能く青年子女を指導する事を要す。

教職員は自己の經驗を以て神の子の生活し得べき高尚なる平面を表示し、能く青年子女をして基督者の高き理想の生活に達せんとする靈感を與ふる様にならねばならぬ。今日教會外に於て基督の教を心に信じつゝも、教會に入り能はざる者の多きは、皆教會員の信仰生活の低下せるを批評し擯斥してゐるのである。けれども純潔なる信仰生活を送りつゝある者にしては何人も後ろ指をさす事ができないのみならず、皆心からの尊信を拂つて自ら神の國の擴張を見るであらう。教職員は神の教を以て人を導く上に於て其當面の責任者である。

更に教職員は後進の若き子女等に、一生の最も重大なる時機に於て正しき決心をなすべき刺戟となり獎勵となり、指導を與へねばならぬ。現代教會が若き人々の頭腦を手腕を其靈を肉を神に捧げしむる程に、敬虔の念に満たしめ得るならば、教會は新しい活氣を帯びるであらう。殊に日曜學校の青年期に達せる生徒の回心の爲に、教職員は其祈り努力を捧ぐる用意がなければならぬ。

四、教職員は知的教養を積んで、教育上の見識を備へ居る事を要す。

以上は主として信仰的靈的の方面を述べたが、今一ツ爰に看過する事の出来ないものは知的準備である。教會發展の爲めに教育上から貢献しやうとする教職員が、教育學や心理學に關して何等の知識を有せず、又従つて教育上意見を有し見識を備ふる事が可能ないならば、世は教會の教育に何等の信念を感じざるに至るであらう。無智無學なる者を蔽ふ方便として



の宗教的熱狂といふものは、教會をして民心指導の任を全ふせしむべき所以のものではない。今や普通の教育に於て人心を指導し得ない事を漸く痛感してきた時代に於て、教職員は少くも精神教育に關して其權威者たらんことを抱負を以て努め、教會の教育をして世の期待に叛かざらしめねばならぬ。

五、教職員は常にビジョンを描いて、教會事業の發展を劃策するを要す。

「幻象なき民は亡ぶる」。ビジョンを見ざる教會も日曜學校も衰頽に傾くは當然の歸結である。何人も現在の日曜學校を以て満足して居る者はないであらう。常に其事業の許す限りさの程度迄之を擴張し充實せしめ得べきかは、教職員の思想のうちに通はねばならない。教授力の充實の爲に生徒の倍加の爲に、教室や其他の施設の完備の爲に、居常發展を心掛けなければ到底現代の要求に應ずる事は可能ない。況んや教會員の家庭の者さへも日曜學校に於て

收容し得ない様な事であつては、所詮其教會が發展すべしとも惟はれない。

其發展の爲には、如何なる新しい方法計畫が適當であるかを研究し、且學ぶ程に興味を感じ劃策する處あらねばならぬ。そしてよく大局に目を注いで教會永遠の發展の爲に、百年の計を樹立する必要がある。國民の精神的培養を怠つた明治以來の教育が、今日の國民精神の不安を招いたやうに、教會も教育的發展を企劃するでなければ、臆て其根より枯れ果つるであらう。

#### 四、教師の資格

光榮ある使命を果さんとするれば、先づ自ら其資格を養はねばならぬ。單に熱烈なる信仰あるだけでは教師の任に耐ふべくもあらぬ。人の師たらんことを志す者には、教養が必要である。



以下重にローランズ氏の掲げられたる暗示に基づき教師の資格を述べて見やう。

(一)教師は聖書の智識を有すべきこと。

教師の取扱ふべき教材の多くは聖書の庫より出たものであつて、之に關する知識を要する事は、自明の理である。そして此の知識は單に次の學課に關するのみならず、少なくとも全體としての聖書に就き、根本的に一般の智識あるを要する。其組成其目的其範圍等を各書に就いて知る處なければならぬ。即ち舊新約聖書の總論は是非とも之を研究し、同時に何等かの註譯書に依つて常に多少の研究を務めねばならぬ。

(二)教師は教育學の智識を有すべきこと。

必ずしも教育學上の著書を涉獵せずとも、實際教育の原理に従ふて訓育を爲す者は多からう。眞に教師の要する智識は此實驗的教育學の智識である。即ち教育學上の原理を實際に應

用し得る事を要する。併し單に實驗より學ばんよりも、何等かの書物によつて原理を學び、而して之を實驗するの捷徑たるはいふ迄もない。

(三)教師は心理學の智識を有すべきこと。

如何なる教師も、常識を備ふる者は多少人の心の働きに關して知る處があるであらう。たゞへ無經驗であつてもまさか幼稚科に施すに大人科に適したる教授方法を取る者もあるまい。併しながら常識云ふものは常に漠然たるものである。確信の基礎となすには甚だ散漫である。農夫は常識によつて穀物を作り得やう。されど土壤學を研究して其智識を應用するものには若はない。教師も教の種を播くべき兒童の心の畑を研究する必要がある。

(四)教師は其事業に對し確信あるを要す。

之は益々養成すべき資格であつて、此點に於て缺くる者は如何に兒童に關する深き智識を



著ふる者も、到底其任を果す事はできない。即ち教師は日曜學校事業に關して其價値を確信する者でなければならぬ。之は自己が働くべき最良の場所であつて、同時に最も有効なる結果を齎し得べきものであるこの信念がなければならぬ。

(五)教師は愛人の熱誠あるを要す。

教師たる資格の終局の問題は彼が人を愛するの熱情あるや否やに在る。若し小さき魂を愛するこゝ基督の如きあらば、彼は他の點に於て縦しや缺くる處多くも、必ず補ひ得て餘りあるであらう。そして彼は如何なる職業に従事し居るこゝも、日曜學校に依つて其美はしき熱情を表はし得るこゝを感謝するであらう。

(六)教師は職責に忠實なるを要す。

忠實は成功の主たる原因である。教師の成功不成功の依て岐るゝ處は彼が其職責に對して

忠實なるや否やにある。如何なる資格を具備する教師も、若し忠實に準備をなし又出席をなすに非ざれば、到底教師として成功すべき見込はない。彼は寧ろ日曜學校の妨礙なるであらう。毎年同じ事を教ふる小學教師すらも、尙毎日の準備を忠實に行ふ。況んや學校としての設備の之に及ばぬ日曜學校の教師は、更に準備を要する。家に在つて教師の資格を有せぬ者は學校に於ても教師の資格がない。一週間の日子教師たらぬ者は、日曜のみに教師の資格を示すこゝはできない。一日として日曜學校教師たるを忘れざる忠實の人こそ眞の教師と云ふべき者である。

### 五、教師の心得

(一)態度容儀に注意すべきこと。